

<評価凡例>  
 A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取り組み、一定の成果も得られている。  
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分でない。

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		事務局確認事項																																					
						説明	説明																																						
<p>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療の提供</p> <p>医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。</p>	<p>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療の提供</p> <p>県立病院機構の全職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。</p>																																												
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努めるとともに、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	1 1 (1)	1	各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足度の向上	<p>セカンドオピニオン数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>総合</td><td>98</td><td>107</td><td>112</td><td>114</td><td>118</td><td>122</td></tr> <tr><td>こども</td><td>44</td><td>45</td><td>63</td><td>39</td><td>46</td><td>47</td></tr> </table> <p>セカンドオピニオン情報提供料算定件数 (総合) (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>診療情報提供料 (I)</td><td>125</td><td>104</td><td>125</td><td>121</td><td>174</td><td>174</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	98	107	112	114	118	122	こども	44	45	63	39	46	47	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	診療情報提供料 (I)	125	104	125	121	174	174	A-	A-	患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。	患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。セカンドオピニオンの件数は年々増加傾向にある。	・セカンドオピニオン件数(紹介された件数)は堅調に推移しており、総合病院・こども病院が他医療機関から信頼を得ていることがうかがえる。 ・また、「情報提供料算定件数(他医療機関へ紹介した件数)」からは、患者からの求めに対応できていることがうかがえる。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
総合	98	107	112	114	118	122																																							
こども	44	45	63	39	46	47																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
診療情報提供料 (I)	125	104	125	121	174	174																																							
			2	運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。	<p>・H29 クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 ・第2期中期目標期間(H26～30) クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 ・H28年度 電子カルテシステムの変更に伴う、クリニカルパスの修正を実施した。</p> <p>クリニカルパスの新規作成、適用率等実績</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>新規作成(件)</td><td>23</td><td>34</td><td>18</td><td>16</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>修正(件)</td><td>71</td><td>68</td><td>51</td><td>224</td><td>149</td><td>149</td></tr> <tr><td>適用率(%)</td><td>68.2</td><td>73.8</td><td>75.8</td><td>66.3</td><td>64.4</td><td>64.4</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	新規作成(件)	23	34	18	16	9	10	修正(件)	71	68	51	224	149	149	適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	64.4	64.4	A-	A-	クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 HCU病棟の先端医学棟4階移転に伴うクリニカルパスの見直し、修正を重点的に実施した。 今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。	既存のクリニカルパスの見直しを随時行うことで適切なクリニカルパスの内容を見直し、適用の厳格化や使用数の少ないクリニカルパスの廃止、統合を行った結果、微減する見込みとなった。 ・H28～29の適用率低下については、既存クリニカルパスの内容を見直し、適用の厳格化や使用数の少ないクリニカルパスの廃止、統合を行った結果、微減する見込みとなった。 ・改善の取組: バリエーションを収集・分析して新規クリニカルパスの作成、既存パスの修正を行い、症例に合ったクリニカルパスを使用し、適用数の増加を図る。 ※バリエーション: クリニカルパスになかった検査が追加された場合などの、予想されたプロセスと異なる経過やアウトカム(達成目標)未達成のこと。								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
新規作成(件)	23	34	18	16	9	10																																							
修正(件)	71	68	51	224	149	149																																							
適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	64.4	64.4																																							
			3	看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。	<p>「患者様の声」の掲載 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>ご意見</td><td>117</td><td>82</td><td>72</td><td>57</td><td>60</td><td>60</td></tr> <tr><td>感謝</td><td>66</td><td>49</td><td>32</td><td>37</td><td>80</td><td>80</td></tr> </table> <p>患者満足度調査 (単位: %)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>入院</td><td>96.4</td><td>95.8</td><td>95.6</td><td>97.8</td><td>97.8</td><td>97.8</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	ご意見	117	82	72	57	60	60	感謝	66	49	32	37	80	80	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	97.8	97.8	A	A	患者様の声は、「感謝」に関するものが前年度と比較して増加しており、看護提供方式の見直し効果が表れている。 患者満足度のH29年度については、10月に調査を実施し、現在集計中である。	H28年度以降、患者満足度、感謝の声が増加し、看護提供方式の見直し効果と言える。	・平成28年度から看護提供方式を見直し、固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行うことを原則として入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで患者にとって継続的な看護が提供されることになる。 ・患者から「感謝」に関する声が増加しているほか、昨年度実施した職員満足度調査では看護師の満足度が前年度比2P増加する等の結果も出ている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
ご意見	117	82	72	57	60	60																																							
感謝	66	49	32	37	80	80																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
入院	96.4	95.8	95.6	97.8	97.8	97.8																																							

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価	第2期(H26～30)自己評価	事務局確認事項																												
						説明	説明																													
			4	先端医学棟建設の工事進捗管理を徹底する。先端医学棟の円滑な運用を行ったための体制を整備する。	<p>・H29 ・6月末に先端医学棟の建設工事が完了した。 ・7月以降、機器・什器等の購入手続きや既存棟からの移転作業を進めた。 ・8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進捗しており、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>手術件数 (単位:件)  <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度見込</td><td>30年度見込</td></tr> <tr><td>手術件数</td><td>7,409</td><td>7,899</td><td>8,375</td><td>8,536</td><td>8,844</td><td>19,000</td></tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位:人)  <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度見込</td><td>30年度見込</td></tr> <tr><td>人数</td><td>2,847</td><td>2,927</td><td>3,308</td><td>3,872</td><td>4,690</td><td>7,184</td></tr> </table> </p></p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	手術件数	7,409	7,899	8,375	8,536	8,844	19,000	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	4,690	7,184	<p>・機器、什器等の購入や既存棟からの移転作業についても、遅滞なく作業を進め、当初計画どおり9月から運用を開始することができた。 ・移転、運用が円滑に行えるよう、各部門に対し、移転に係る説明会、機器等の操作説明会等を実施した結果、大きな問題なく、移転が完了し、運用を開始することができた。 ・手術件数も順調に増加し、先端医学棟を円滑に運用できた。 ・医師、看護師の増員等により、先端医学棟の運用体制の整備を図った。</p>	<p>・先端医学棟及び関連工事について、十分なコスト削減を図った上で、当初計画どおり完了することができた。 ・機器や什器等の購入手続き、先端医学棟への移転手続きについて十分なコスト削減を図った上で遅滞なく作業を進め、当初計画どおり先端医学棟の運用を開始することができた。</p>	<p>・コスト削減についての情報掲載 ①設計段階での見直し▲4億円 ②応札業者の拡大による競争促進▲16.7億円の入札差金 ③工事着手後の再精査▲2億円 トータル22.7億円のコストカット ・さらに、機器等の購入時に大量・一括入札、価格交渉を重ねたことにより▲10億円 ・建設工事が計画どおり完了したのに加えて既存棟からの移転作業においても院内説明会等を開催するなど早期運用に向けた作業が順調に行われた。 ・手術室の増加や麻酔科医の増員(+6人)など体制整備も図られ、先端医学棟の開棟後、手術件数が増加している(前年同月比:20%程度の増加) ・術後患者を受入れるHCUの増床(+8床)もあり延べ患者数も増加している。(前年同月比:70%程度の増加)</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
手術件数	7,409	7,899	8,375	8,536	8,844	19,000																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	4,690	7,184																														
			5	立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。	<p>・H29 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を先行して実施した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付で静岡市より建築許可を受けた。設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。</p>	<p>・工事説明会において、工事に伴う近隣への影響等を周知できた。 ・周辺整備工事はスケジュールどおり完了した。 本体工事は順調に進捗し、本年度の進捗目標(40%)を達成する見込みである。</p>	<p>・市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28.12月に静岡市より建築許可を受けることができた。 ・設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、H29.3月に施工業者を決定した結果、当初計画より完成予定時期を約4か月間、前倒しできる見込みである。</p>	<p>・周辺工事が完了し早期に本体工事に着手しており計画よりも前倒しで進捗している。(H30年8月オープン予定) ・地元との調整も適切に行われ住民からの要望も反映した(→市公聴会において近隣住民より、「北側退場路の設置により安全面で不安がある」、「夜間の利用台数を減らしてほしい」等の意見・要望があり、その対応として、ゲートバー、反射式の道路標、出庫警告灯等の設置により安全対策を強化することに加え、夜間の退場車両台数を減らすため18時以降における屋上階への新規入場を制限することとした。) ・院外臨時駐車場の確保及びシャトルバスの運行により周辺道路への影響についても配慮されている。</p>																												
			6	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<p>・H29 H29.9未現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位:件)  <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度見込</td><td>30年度見込</td></tr> <tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> </table> </p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	<p>クリニカルパスについては、導入が可能なものについて積極的に導入し、患者の負担軽減に努め、わかりやすい医療を提供した。</p>	<p>クリニカルパスの適用が比較的少ない精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入し、患者の負担軽減を図るとともに計画的でわかりやすく納得できる医療の提供に努めている。</p>	<p>・精神科医療では個々の病状に合わせた診療となるケースが多く、パスを適用できるケースは限られるが、比較的計画的な診療が可能なものは導入されている。 ・H29年9月時点で入院患者233人のうち32人に適用されている。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																														
			7	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<p>稼働クリニカルパス件数 (単位:件)  <table border="1"> <tr><td>区分</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度見込</td><td>30年度見込</td></tr> <tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>40</td><td>44</td><td>46</td><td>48</td><td>48</td><td>48</td></tr> </table> </p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働クリニカルパス	40	44	46	48	48	48	<p>クリニカルパスについては、導入が可能なものについて、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。</p>	<p>クリニカルパスの積極的な導入により、稼働件数は増えている。今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努めるとともに、計画的でわかりやすい医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしておく。</p>	<p>・稼働パス件数は年々増加している。 ・成人の場合と異なり、小児の場合、例えば薬剤の量など患者の体重別に細分化するなど、きめ細かい対応がとられている。 ・H29年9月時点で入院患者2,619人のうち835人に適用されている。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
稼働クリニカルパス	40	44	46	48	48	48																														

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
						説明	説明	説明	事務局確認事項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		1 1 (1)		各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の上	<p>・H29 チーム医療に対する診療報酬 91,855千円 ・第2期中期目標期間 (H26~30) チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。 また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている。</p> <p>チーム医療の推進（カンファレンスの開催）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内5回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・臨床工学士・理学療法士</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こころ</td> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤師・社会福祉士・療法士</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内4回/週 院内4回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>随時</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> </tbody> </table> <p>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="4">25年度</th> <th colspan="4">26年度</th> <th colspan="4">27年度</th> <th colspan="4">28年度</th> <th colspan="4">29年度見込</th> <th colspan="4">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>53,110</td><td>53,110</td><td>60,200</td><td>72,117</td> <td>74,979</td><td>88,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td> <td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td> <td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td> <td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td> <td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td><td>80,325</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1,410</td><td>2,730</td><td>2,520</td><td>6,320</td> <td>6,320</td><td>6,320</td><td>6,320</td><td>6,320</td> <td>144</td><td>144</td><td>144</td><td>144</td> <td>144</td><td>144</td><td>144</td><td>144</td> <td>144</td><td>144</td><td>144</td><td>144</td> <td>144</td><td>144</td><td>144</td><td>144</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>568</td><td>4,930</td><td>4,930</td><td>4,930</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>55,040</td><td>56,940</td><td>62,720</td><td>78,397</td> <td>87,990</td><td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td> <td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td> <td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td> <td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td> <td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td><td>91,855</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>303</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>303</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> <td>434</td><td>434</td><td>434</td><td>434</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>17,792</td><td>17,792</td><td>17,844</td><td>18,870</td> <td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td> <td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td> <td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td> <td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td> <td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td><td>18,887</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> <td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td> <td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td> <td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td> <td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td><td>2,640</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>66,900</td><td>66,646</td><td>66,646</td><td>66,646</td> <td>66,646</td><td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td> <td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td> <td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td> <td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td> <td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td><td>66,292</td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査	感染防止対策チーム	院内5回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学士・理学療法士	こころ	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・社会福祉士・療法士	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内4回/週 院内4回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査	こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	リハビリテーション	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	区分	項目	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度見込				30年度見込				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	総合	栄養サポートチーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	感染防止対策チーム	53,110	53,110	60,200	72,117	74,979	88,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	褥瘡対策チーム	1,410	2,730	2,520	6,320	6,320	6,320	6,320	6,320	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	呼吸ケアチーム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	認知症ケアチーム	-	-	-	-	-	-	-	-	568	4,930	4,930	4,930	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	計	55,040	56,940	62,720	78,397	87,990	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	こころ	感染防止対策チーム	-	-	-	-	303	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	計	-	-	-	-	303	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	こども	感染防止対策チーム	17,792	17,792	17,844	18,870	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	-	-	-	-	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	計	66,900	66,646	66,646	66,646	66,646	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	<p>総合においては、認知症ケアチームを設置し、質の高い医療を行う体制が整備されている。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。</p> <p>チーム医療に対する診療報酬が加算され、収益面でも貢献している。H29年1月より認知症ケアチーム加算の施設基準を取得し、算定している。</p>	<p>H28年度より呼吸ケアチーム加算、認知症ケアチーム加算の算定を開始し、チーム医療の推進が収益面からも評価されている。</p> <p>・チーム医療加算合計金額 H25:75,399千円 H28:82,090千円 H29:91,855千円(見込み)</p>	<p>・各病院とも多職種による院内カンファレンスが実施されており、患者の状況に的確に対応できる体制が整いつつある。</p> <p>・チーム医療の推進について、総合病院ではこころの医療センターの医師を含めた認知症ケアチームが院内カンファレンスを実施する(1回/週)など病院間の連携も図られている。</p> <p>・総合病院では、H29年11月から「総合入院体制加算2(180点/日)」を取得しており収入面においても貢献している。</p> <p>・チーム医療による診療体制の充実とともに、診療報酬上の評価加算により経営(収入)面でも貢献している。</p> <p>なお、認知症に発展する可能性のある患者も含めて早期介入することで悪化予防とともに身体疾患の治療を円滑に受けられるようによるよう取り組んでいる。</p>
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	感染防止対策チーム	院内5回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学士・理学療法士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
こころ	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・社会福祉士・療法士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	感染防止対策チーム	院内4回/週 院内4回/週	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
こども	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	リハビリテーション	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
区分	項目	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度見込				30年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
総合	栄養サポートチーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	53,110	53,110	60,200	72,117	74,979	88,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325	80,325																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	1,410	2,730	2,520	6,320	6,320	6,320	6,320	6,320	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144	144																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	呼吸ケアチーム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	認知症ケアチーム	-	-	-	-	-	-	-	-	568	4,930	4,930	4,930	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
計	55,040	56,940	62,720	78,397	87,990	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855	91,855																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
こころ	感染防止対策チーム	-	-	-	-	303	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	計	-	-	-	-	303	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434	434																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
こども	感染防止対策チーム	17,792	17,792	17,844	18,870	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887	18,887																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	-	-	-	-	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640	2,640																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
計	66,900	66,646	66,646	66,646	66,646	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292	66,292																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			9	医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>・H29 3病院で、29回の院内感染対策研修、42回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">25年度</th> <th colspan="4">26年度</th> <th colspan="4">27年度</th> <th colspan="4">28年度</th> <th colspan="4">29年度見込</th> <th colspan="4">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>7</td><td>1,884</td><td>13</td><td>2,357</td> <td>13</td><td>2,357</td><td>13</td><td>2,357</td> <td>13</td><td>2,357</td><td>13</td><td>2,357</td> <td>13</td><td>2,357</td><td>13</td><td>2,357</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>2</td> <td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td> <td>0</td><td>161</td><td>252</td><td>2,481</td> <td>252</td><td>2,481</td><td>252</td><td>2,481</td> <td>252</td><td>2,481</td><td>252</td><td>2,481</td> <td>252</td><td>2,481</td><td>252</td><td>2,481</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td> <td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td> <td>7</td><td>1,884</td><td>13</td><td>2,357</td> <td>13</td><td>2,357</td><td>13</td><td>2,357</td> <td>13</td><td>2,357</td><td>13</td><td>2,357</td> <td>13</td><td>2,357</td><td>13</td><td>2,357</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに計画的研修は2回</p>	区分	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度見込				30年度見込				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	総合	4	1	0	2	0	0	0	0	7	1,884	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	こころ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	こども	0	0	3	2	3	2	3	2	0	161	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	計	4	1	3	2	3	2	3	2	7	1,884	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	<p>各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行う等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p>	<p>職員への意識づけのための研修会について、実施体制が整い出来るように、運用や開催時間等を考えて実施している。</p>	<p>・院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識づけが行われている。</p> <p>・各病院でそれぞれ対策マニュアルが整備されており、必要に応じて随時見直しも行われている。</p> <p>・こども病院の集団感染については以下平成29年度の実績 【集団呼吸器症状】短期で沈静化 【ノロウイルス】短期で沈静化。現在も、症状が出た患者の様子を病棟から感染対策室へ報告を継続している</p> <p>【手術部位感染】術前後を含めて手術手技の見直し、手術室内の環境整備などで対応。</p>																																																																																																																																																																																																																								
区分	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度見込				30年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
総合	4	1	0	2	0	0	0	0	7	1,884	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
こころ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
こども	0	0	3	2	3	2	3	2	0	161	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481	252	2,481																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
計	4	1	3	2	3	2	3	2	7	1,884	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357	13	2,357																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			10	患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">25年度</th> <th colspan="4">26年度</th> <th colspan="4">27年度</th> <th colspan="4">28年度</th> <th colspan="4">29年度見込</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>96.4</td><td>95.8</td><td>95.6</td><td>97.8</td> <td>91.9</td><td>88.2</td><td>89.6</td><td>93.2</td> <td>91.9</td><td>88.2</td><td>89.6</td><td>93.2</td> <td>91.9</td><td>88.2</td><td>89.6</td><td>93.2</td> <td>91.9</td><td>88.2</td><td>89.6</td><td>93.2</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>88.8</td><td>88.2</td><td>89.8</td><td>88.5</td> <td>88.8</td><td>88.2</td><td>89.8</td><td>88.5</td> <td>88.8</td><td>88.2</td><td>89.8</td><td>88.5</td> <td>88.8</td><td>88.2</td><td>89.8</td><td>88.5</td> <td>88.8</td><td>88.2</td><td>89.8</td><td>88.5</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>92.5</td><td>91.3</td><td>91.9</td><td>98.4</td> <td>89.4</td><td>91.2</td><td>90.9</td><td>98.1</td> <td>89.4</td><td>91.2</td><td>90.9</td><td>98.1</td> <td>89.4</td><td>91.2</td><td>90.9</td><td>98.1</td> <td>89.4</td><td>91.2</td><td>90.9</td><td>98.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>集計中</p>	区分	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度見込				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	総合	96.4	95.8	95.6	97.8	91.9	88.2	89.6	93.2	91.9	88.2	89.6	93.2	91.9	88.2	89.6	93.2	91.9	88.2	89.6	93.2	こころ	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	こども	92.5	91.3	91.9	98.4	89.4	91.2	90.9	98.1	89.4	91.2	90.9	98.1	89.4	91.2	90.9	98.1	89.4	91.2	90.9	98.1	<p>10月に調査を実施した。(現在集計中)</p>	<p>全体の評価としては、入院、外来においても高い満足度を獲得している。</p>	<p>集計中のため評価不可</p> <p>総合：接遇トレーニングの実施、待ち時間対策として院外駐車場の設置及びシャトルバスの運行等 こころ：利便性の高い職員駐車場を外来駐車場とする等 こども：待ち時間対策としてアメニティ広場の設置、駐車場の区画線引きなおし等</p>																																																																																																																																																																																																																																																																					
区分	25年度				26年度				27年度				28年度				29年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
総合	96.4	95.8	95.6	97.8	91.9	88.2	89.6	93.2	91.9	88.2	89.6	93.2	91.9	88.2	89.6	93.2	91.9	88.2	89.6	93.2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
こころ	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5	88.8	88.2	89.8	88.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	92.5	91.3	91.9	98.4	89.4	91.2	90.9	98.1	89.4	91.2	90.9	98.1	89.4	91.2	90.9	98.1	89.4	91.2	90.9	98.1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29-中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																										
						説明	説明	事務局確認事項																																																																										
(2) 県立病院が担う役割 県内医療機関の中核病院として地域連携に努め、他の医療機関では対応困難な高度又は特殊な医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供すること。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	(2) 県立病院が担う役割 県立病院が担う高度・専門・特殊医療が確実に提供できるよう、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進める。併せて、情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携ネットワークづくりを進める。また、先進的技術・治療法の導入についても積極的に取り組む。	1 1 (2)	11	かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。	<table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>82.1</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>89.0</td> <td>80.0</td> <td>89.4</td> <td>89.4</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>106.7</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>161.5</td> <td>90.0</td> <td>161.8</td> <td>161.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度見込	30年度見込	紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	80.0	89.4	89.4	逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	90.0	161.8	161.8	A	A	紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。かかりつけ医との連携、機能分化は着実に推進している。	紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。H25年度と比較しても向上し、かかりつけ医との連携、機能分化は着実に推進している。	・地域の医療機関との連携のための取組として、定期的な勉強会の開催や地域連携バス会議等への参加などにより、地域医療支援病院としての基準を大きく上回る紹介率・逆紹介率を維持している。																																																
					区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度見込	30年度見込																																																																						
					紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	80.0	89.4	89.4																																																																						
					逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	90.0	161.8	161.8																																																																						
					<table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>49.6</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>55.0</td> <td>56.0</td> <td>55.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>29.8</td> <td>27.4</td> <td>30.8</td> <td>29.6</td> <td>38.0</td> <td>30.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	27年度	28年度	29年度	29年度見込	30年度見込	紹介率	49.6	57.9	56.2	55.0	56.0	55.6	逆紹介率	29.8	27.4	30.8	29.6	38.0	30.9	B	B	他の医療機関等と連携を図り、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進した結果、目標には届かないが、前年度実績を上回ることができた。	県立病院が担う専門医療が確実に提供するため、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進めている。今後も「よろず相談・地域連携スタッフを中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。	・他の医療機関では対応困難な患者を受入れていることから逆紹介率は伸びにくい事情がある。 ・他施設からの患者受入や退院後の受入れ先の調整における地域連携スタッフの関与等により、一定程度の紹介率・逆紹介率を維持している。																																																			
区分	25年度	27年度	28年度	29年度	29年度見込	30年度見込																																																																												
紹介率	49.6	57.9	56.2	55.0	56.0	55.6																																																																												
逆紹介率	29.8	27.4	30.8	29.6	38.0	30.9																																																																												
<table border="1"> <caption>紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>94.8</td> <td>91.8</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>92.0</td> <td>95.8</td> <td>94.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>49.9</td> <td>53.2</td> <td>52.6</td> <td>52.5</td> <td>32.0</td> <td>42.0</td> <td>49.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度見込	30年度見込	紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	95.8	94.0	逆紹介率	49.9	53.2	52.6	52.5	32.0	42.0	49.9	A	A	他の医療機関と連携を図ることにより、紹介・逆紹介共に目標を上回っており、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っている。	他の医療機関と連携を図ることにより、期間を通じて目標値を上回っている。	・原則紹介予約制をとっていることから紹介率は高い実績を維持しているが、重篤な小児患者が多いため逆紹介率は伸びにくい事情がある。 ・前年度比、逆紹介率が低下していることから、今後、地域の医療機関との連携促進に向けた取組が望まれる。																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	29年度見込	30年度見込																																																																											
紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	95.8	94.0																																																																											
逆紹介率	49.9	53.2	52.6	52.5	32.0	42.0	49.9																																																																											
<table border="1"> <caption>地域連携クリニカルバス (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳 卒 中</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>大 腸 直 腸 部 会 診</td> <td>110</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>115</td> <td>66</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>胃 が ん</td> <td>94</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>86</td> <td>96</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>大 腸 が ん</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>乳 が ん</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>131</td> <td>176</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>前 立 腺 が ん</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>虚 血 性 心 疾 病</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>36</td> <td>185</td> <td>190</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>慢 性 腎 臓 病</td> <td>40</td> <td>28</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>肺 が ん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>444</td> <td>392</td> <td>720</td> <td>710</td> <td>710</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	脳 卒 中	38	42	68	52	40	40	大 腸 直 腸 部 会 診	110	67	65	115	66	66	胃 が ん	94	77	80	86	96	96	大 腸 が ん	135	133	151	114	110	110	乳 が ん	102	95	118	131	176	176	前 立 腺 が ん	7	2	0	0	10	10	虚 血 性 心 疾 病	0	0	36	185	190	190	慢 性 腎 臓 病	40	28	54	37	22	22	肺 が ん	0	0	0	0	0	0	計	526	444	392	720	710	710	A	A	関係機関との連携により地域連携クリニカルバスの適用が進んでいる。前立腺がんについて地域連携クリニカルバスを見直し、地域連携を推進した。	関係機関との連携により地域連携クリニカルバスの適用が進んでいる。 虚血性心疾患については、医師と積極的に取り組むことにより、適用件数が大幅に伸びている。	・地域連携クリニカルバス新規登録件数(新規)は堅調であり、前立腺がんのバスは見直し後再開している。 ・地域連携クリニカルバスの運用により地域の医療機関との機能分化の推進とともに、退院患者の受け渡しが円滑になることで患者にとって安心感を得ることに繋がると考えられる。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																												
脳 卒 中	38	42	68	52	40	40																																																																												
大 腸 直 腸 部 会 診	110	67	65	115	66	66																																																																												
胃 が ん	94	77	80	86	96	96																																																																												
大 腸 が ん	135	133	151	114	110	110																																																																												
乳 が ん	102	95	118	131	176	176																																																																												
前 立 腺 が ん	7	2	0	0	10	10																																																																												
虚 血 性 心 疾 病	0	0	36	185	190	190																																																																												
慢 性 腎 臓 病	40	28	54	37	22	22																																																																												
肺 が ん	0	0	0	0	0	0																																																																												
計	526	444	392	720	710	710																																																																												
<table border="1"> <caption>ネットワーク実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>9,848</td> <td>12,424</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> <td>23,862</td> <td>25,279</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>175</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> <td>168</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>99</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> <td>91</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>53</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>45</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>介護施設</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開示施設数	14	14	15	18	18	19	開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,862	25,279	参照施設数	175	208	194	141	168	186	病院	14	17	17	13	15	17	診療所	99	122	104	76	91	100	保険薬局	53	57	59	40	45	48	介護施設	8	11	12	10	15	18	介護福祉施設	1	1	2	2	2	3	A	A	ネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも順調に拡大を続けている。今後も参加施設数を増やし、地域の中核病院としての役割を果たし、地域医療機関等との連携を強化していく。	第2期中期計画期間中にも順調に開示施設を増やすことができた。今後も地域医療連携推進事業費補助金等を活用し参加施設数を拡大していく。また、今まで静岡県立病院ネットワークシステムのデータセンターの運営経費について、適正な経費負担を図った。(H28年度から利用料を徴収開始)	・H29年度の新規開示件数は4,067件と前年度：3,981件から増加している。(開示件数・開示施設が参照施設に患者情報を開示決定した累計件数) ・参照施設数は、前年度、運営経費の負担を求めたことから減少したが増加している。 ・運営経費に係る負担金の徴収により適正な経費負担が図られたことから、今後、参画する施設にとってメリットが感じられるような運用が求められる。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																												
開示施設数	14	14	15	18	18	19																																																																												
開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,862	25,279																																																																												
参照施設数	175	208	194	141	168	186																																																																												
病院	14	17	17	13	15	17																																																																												
診療所	99	122	104	76	91	100																																																																												
保険薬局	53	57	59	40	45	48																																																																												
介護施設	8	11	12	10	15	18																																																																												
介護福祉施設	1	1	2	2	2	3																																																																												

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価		事務局確認事項																																																																											
						説明	説明	説明	説明																																																																												
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を目指し、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図ること。県立こころの医療センターにおいては、小児重症心疾患患者およびベリタ/胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進的医療の提供や小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図ることなど、小児全般の高度医療を推進すること。さらに、県立3病院は、結核、エイズ、新型インフルエンザ等の感染症医療や難病医療、移植医療等を提供するとともに、精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症の対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を生かし、相互に連携をとり、適切な対応を図ること。 また、患者の在宅への移行が順調に進むよう、地域の医療機関等との連携を図り、相談支援体制の充実や退院後のフォローアップの実施に努めること。 その他、認知症や発達障害への対応など新たな課題に取り組むとともに、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。	<p>(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。</p> <p>ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p> <p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。</p> <p>エ 先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。</p> <p>循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p> <p>周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。</p> <p>先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>																																																																												
										<p>ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p> <p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。</p> <p>エ 先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>																																																																								
										<p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。</p> <p>エ 先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>																																																																								
					<p>・児童の措置入院等、こども病院での受け入れが困難な場合はこころの医療センターにて受け入れている。</p> <p>周産期医療における搬送実績(単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>子ども総合</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>総合→こども</td> <td>10.0</td> <td>8.0</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>13.1</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	子ども総合	4	9	8	3	4	4	総合→こども	10.0	8.0	14	11	16	13.1	<p>症例の発生状況により搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p>	<p>第2期中期計画の期間を通じて、症例の発生状況により期間中の搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p>	<p>・周産期医療において「総合⇄こども病院」間で患者搬送が行われるほか、児童の措置入院では「こころ⇄こども病院」間で連携した対応がとられている。</p> <p>・精神身体合併症については、自殺企図及び自傷又はそれが疑われる行為による患者が救急を受診した場合、救命救急棟で入院管理を行い、必要に応じて総合病院からの要請を受け、こころの医療センターの精神保健指定医が派遣されている。</p> <p>→こころの医療センターから総合病院への派遣件数 (救急救命入院科の注2に規定する加算件数) 平成29年度(12月末) 21件</p>																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
子ども総合	4	9	8	3	4	4																																																																															
総合→こども	10.0	8.0	14	11	16	13.1																																																																															
					<p>結核病棟50床について運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27年5月に指定を受けた。難病指定医についても、これまでに21診療科80名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。</p> <p>入院患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>エイズ</td> <td>134</td> <td>14</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>126</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>134</td> <td>14</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>126</td> <td>126</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	エイズ	134	14	98	119	126	126	結核	134	14	98	119	126	126	<p>県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受け入れ。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p>	<p>県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受け入れ。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p>	<p>・東部地域に結核病床が少ないこともあり、総合病院では県中東部地域をカバーしている。(9月～11月実績:中部20人、東部10人)</p> <p>・指定難病が増加している中、21診療科・80人の難病指定医にて対応できている。</p> <p>・地域の医療機関とは、勉強会・地域連携バスの運用等を通じて連携が図られている。</p>																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
エイズ	134	14	98	119	126	126																																																																															
結核	134	14	98	119	126	126																																																																															
					<p>移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>腎移植</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>・腎臓移植は、H25年度に1件、H27年度に3件、H28年度に2件を行った。</p> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>13</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	腎移植	12	13	11	14	18	18	造血幹細胞移植	10	8	8	11	6	6	強角膜片作成	9	6	7	3	4	4	計	31	27	26	28	28	28	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	骨髄移植	9	9	4	4	4	7	臍帯血	1	1	0	2	2	1	自家末梢血	2	2	8	5	3	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	9	13	<p>腎臓移植:H29は上半期で9例の腎移植を達成し、増加傾向にある。造血幹細胞移植:順調に推移している。強角膜片:過去に比べ、若干減少している。</p>	<p>期間を通じて、生体移植も含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を継続して実施できている。</p>	<p>・継続して実施されており、先進医療が提供できる体制が整備されている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
腎移植	12	13	11	14	18	18																																																																															
造血幹細胞移植	10	8	8	11	6	6																																																																															
強角膜片作成	9	6	7	3	4	4																																																																															
計	31	27	26	28	28	28																																																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
骨髄移植	9	9	4	4	4	7																																																																															
臍帯血	1	1	0	2	2	1																																																																															
自家末梢血	2	2	8	5	3	4																																																																															
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																															
計	13	13	13	11	9	13																																																																															
					<p>適用患者の数に変動はあるため、実績値は減少したが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。</p>	<p>適用患者の数に変動はあるため、実績値は減少したが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。</p>	<p>期間を通じ、造血幹細胞移植を着実に継続して実施した。</p>	<p>・継続して実施されており、先進医療が提供できる体制が整備されている。</p>																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29~中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																																															
						説明	説明	説明																																																	
	オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	1 1 (3) オ		リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	<p>・H29 リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。</p> <p>・第2期中期期間 (H26~30) 地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。</p> <table border="1"> <caption>地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,377</td> <td>1,554</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>2,462</td> <td>2,462</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(円)</td> <td>603</td> <td>710</td> <td>770</td> <td>---</td> <td>---</td> <td>---</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(1割)</td> <td>---</td> <td>---</td> <td>---</td> <td>1,034</td> <td>1,618</td> <td>1,618</td> </tr> <tr> <td>退院時1対1フォロー指導料</td> <td>1,291</td> <td>1,279</td> <td>980</td> <td>601</td> <td>722</td> <td>722</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,884</td> <td>1,989</td> <td>1,750</td> <td>1,635</td> <td>2,340</td> <td>2,340</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	1,377	1,554	1,754	2,204	2,462	2,462	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	退院調整加算(円)	603	710	770	---	---	---	退院支援加算1(1割)	---	---	---	1,034	1,618	1,618	退院時1対1フォロー指導料	1,291	1,279	980	601	722	722	計	1,884	1,989	1,750	1,635	2,340	2,340	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援することで、円滑な地域医療連携に貢献した。</p>	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。退院支援加算の算定件数が着実に増加しており、支援の効果が収益面にも現れている。</p>	<p>・各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域の医療機関と顔の見える関係を構築し、地域医療ネットワークセンター職員等が積極的に支援したことで退院調整件数が増加している。 ・診療報酬においても算定件数が増加しており経営面にも貢献している。 ・「支援の強化」について・・・看護師が入院時に退院調整の必要性を検討するスクリーニングを各病棟で行い、退院調整が必要な患者を早期発見し、リハビリテーションの早期介入や退院後の施設等の相談や支援にあたった。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
件数	1,377	1,554	1,754	2,204	2,462	2,462																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
退院調整加算(円)	603	710	770	---	---	---																																																			
退院支援加算1(1割)	---	---	---	1,034	1,618	1,618																																																			
退院時1対1フォロー指導料	1,291	1,279	980	601	722	722																																																			
計	1,884	1,989	1,750	1,635	2,340	2,340																																																			
			20	<p>・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 ・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。</p>	<p>・H29 リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援した。</p> <p>・第2期中期目標期間 (H26~30) 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。 また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。</p> <table border="1"> <caption>リハビリテーション活動実施件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>3,300</td> <td>3,187</td> <td>3,090</td> <td>3,581</td> <td>3,694</td> <td>4,584</td> </tr> <tr> <td>リハビリ</td> <td>1,553</td> <td>1,105</td> <td>1,238</td> <td>1,483</td> <td>3,380</td> <td>3,380</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,653</td> <td>12,292</td> <td>11,448</td> <td>11,067</td> <td>12,664</td> <td>12,664</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>訪問看護実施件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,088</td> <td>2,701</td> <td>3,380</td> <td>3,321</td> <td>4,134</td> <td>4,134</td> </tr> <tr> <td>(17分費額別開)</td> <td>398</td> <td>394</td> <td>310</td> <td>187</td> <td>181</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	精神科作業療法	3,300	3,187	3,090	3,581	3,694	4,584	リハビリ	1,553	1,105	1,238	1,483	3,380	3,380	計	13,653	12,292	11,448	11,067	12,664	12,664	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	訪問看護実施件数	2,088	2,701	3,380	3,321	4,134	4,134	(17分費額別開)	398	394	310	187	181	70	<p>患者の社会復帰及び地域生活支援に向け、リハビリテーション活動並びに訪問看護を充実させた。</p>	<p>リハビリテーションや訪問看護等の相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に積極的に取り組んだ。 リハビリテーションについては、25年度13,000件ほどの水準を維持している。 また訪問看護については、25年度2,698件から4,000件を超え、大幅に増加している。</p>	<p>・平均在院日数が短縮する中、社会復帰に向けたリハビリや地域での生活を支援する訪問看護は重要である。 ・リハビリ実施件数、訪問看護実績件数ともに増加しており、精神患者の在宅医療の支援体制が強化されている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
精神科作業療法	3,300	3,187	3,090	3,581	3,694	4,584																																																			
リハビリ	1,553	1,105	1,238	1,483	3,380	3,380																																																			
計	13,653	12,292	11,448	11,067	12,664	12,664																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
訪問看護実施件数	2,088	2,701	3,380	3,321	4,134	4,134																																																			
(17分費額別開)	398	394	310	187	181	70																																																			
			21	<p>言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他者の充実を図る。</p>	<p>リハ実施実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,617</td> <td>20,414</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> <td>19,842</td> <td>18,638</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,972</td> <td>7,317</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,356</td> <td>6,398</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚業務</td> <td>7,893</td> <td>7,180</td> <td>7,829</td> <td>7,656</td> <td>7,219</td> <td>7,952</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,472</td> <td>35,011</td> <td>31,975</td> <td>32,170</td> <td>33,416</td> <td>33,188</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	19,842	18,638	作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,356	6,398	言語聴覚業務	7,893	7,180	7,829	7,656	7,219	7,952	計	32,472	35,011	31,975	32,170	33,416	33,188	<p>リハビリ需要の増加に対応しているが、質の向上を図っていくためには専任のリハビリテーション医の確保が必要である。</p>	<p>漸増状況にあるリハビリ需要に対応した。</p>	<p>・特別支援学校への訪問指導において1児童に対して同じ療法士がフォローを行うことで、そこで得た知見を学校現場に還元するなど連携が図られている。 ・課題とされている専任のリハビリテーション医について、H30.4.1から1名採用となるのでより充実した対応を期待する。 ・病院でのリハビリ実績件数は維持されている。 ・表の件数に、退院後フォローの患者も含まれる。呼吸訓練等は入院中に行い、退院後には機能訓練のほか、未熟児やダウン症児、精神運動発達遅滞に対する「発達援助」、「椅子・装具療法」といった訓練が多い。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	19,842	18,638																																																			
作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,356	6,398																																																			
言語聴覚業務	7,893	7,180	7,829	7,656	7,219	7,952																																																			
計	32,472	35,011	31,975	32,170	33,416	33,188																																																			
	カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	1 1 (3) カ		<p>遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。</p>	<p>・H29 遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。</p> <p>・第2期中期目標期間 (H26~30) H27年度に院内の関係する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。</p> <table border="1"> <caption>遺伝診療科受診者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>---</td> <td>---</td> <td>31</td> <td>39</td> <td>65</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	受診者数	---	---	31	39	65	70	<p>H29年度の遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。</p>	<p>H27年度から遺伝診療科を開設した。開始時から年々患者数が増加傾向にある。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。</p>	<p>・平成27年度に遺伝診療科を開設して以降、受診患者数は年々増加傾向にある。 ・臨床遺伝専門医や臨床心理士等の体制でカウンセリングが行われている。</p>																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
受診者数	---	---	31	39	65	70																																																			

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価	第2期 (H26~30) 自己評価	事務局確認事項																																																																																																								
	キ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別診断や治療の実施とともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	1 1 3 キ	23	鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等を推進する。	<p>鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。</p> <table border="1"> <caption>脳FDG-PET (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>137</td> <td>144</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>168</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>認知症ケア加算 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>803</td> <td>7,624</td> <td>7,624</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	実施件数	137	144	131	135	168	168	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	算定件数	-	-	-	803	7,624	7,624	A-	A-	・総合病院ではこのころの医療センターの医師を含めた認知症ケアチームがカンファレンスを週1回実施し、早期介入を行うことで認知症状の悪化を予防することを目指している。 ・また、認知症の鑑別に有用とされる脳FDG-PETの実施件数は増加する見込みである。 ・認知症ケアチームの介入により診療報酬における「認知症ケア加算」件数が大幅に増加する見込みで経営面で貢献している。 ・周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等に必要な精神科医の確保が出来ていない。県立病院機構内での精神科医の異動等も検討しながら、引続き精神科医の募集に努める。																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
実施件数	137	144	131	135	168	168																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
算定件数	-	-	-	803	7,624	7,624																																																																																																										
			24	・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 ・老年期特有の専門外来（老年期こころと物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。	<p>認知症入院患者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>201</td> <td>161</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>141</td> <td>145</td> </tr> </tbody> </table> <p>老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td> <td>793</td> <td>855</td> <td>797</td> <td>570</td> <td>490</td> <td>490</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	認知症入院患者	201	161	6	11	141	145	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	老年期こころと物忘れ外来実施件数	793	855	797	570	490	490	A-	A-	・H29年9月時点で入院患者の約9割を精神科救急病棟で受け入れ、また、精神科救急の施設基準を大きく上回る新規患者を受け入れており、救急・急性期医療体制が維持されている。 ・認知症入院患者のほとんどが周辺症状(BPSD)が現れた者のため、転倒・転落防止のため低床ベッドを整備する等の対策をとっている。																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
認知症入院患者	201	161	6	11	141	145																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
老年期こころと物忘れ外来実施件数	793	855	797	570	490	490																																																																																																										
			25	発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	<p>発達小児科診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来総実施件数</td> <td>2,755</td> <td>2,999</td> <td>3,210</td> <td>3,937</td> <td>3,663</td> <td>3,663</td> </tr> </tbody> </table> <p>・発達障害児を持つ保護者を対象に、H29年6月～11月の間、計10回、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 ・中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	外来総実施件数	2,755	2,999	3,210	3,937	3,663	3,663	A-	A-	・発達障害に係る外来患者が年々増加する中、保護者向けのペアレント・トレーニングや低出生体重児の発達フォローを継続的に実施している。 ・課題としている「発達障害を専門とする医師の確保」については現在のところ目星が付いていない状況。																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
外来総実施件数	2,755	2,999	3,210	3,937	3,663	3,663																																																																																																										
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ハイブリッド手術室の整備、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。	1 1 3 ク	26	中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。	<p>・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適合に対応するため、防排煙設備の一部について、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。 ・先端医学棟(5階建 延床面積約20,569.6㎡)の建設工事が完了し、H29年7月に竣工式を挙げて、H29年9月に稼働した。 ・第1立体駐車場がH29年3月に着工し、H30年10月末の工事完了に向けて施工中である。 ・子ども病院本館の老朽化に対応するため、本館リニューアル工事の実施設計を行っている。H30年度末の工事完了を目指して、今後速やかに着工する予定。 ・子ども病院の院内保育所を建替えるため、実施設計を行っている。H30年7月の開所を目指して、H29年度内の着工を予定。 ・先端医学棟建設工事(H27からの継続工事)を進め、6月末に完成した。 ・先端医学棟の開棟に向け、必要な機器等を整備した。 ・第1期リニューアル工事の施工業者を決定し、11月からの本格着工に向けて準備作業を進めた。 ・北安東2丁目の医師宿舎建設工事に係る設計作業を完了し、工事発注手続きを進めた。</p> <table border="1"> <caption>施設及び機器等の整備状況 (単位:百万円)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">計画</th> <th colspan="4">施設整備</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,479</td> <td>31</td> <td>1,141</td> <td>1,863</td> <td>5,136</td> <td>5,783</td> <td>2,555</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1,205</td> <td>32</td> <td>119</td> <td>623</td> <td>194</td> <td>18</td> <td>261</td> <td></td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>2,260</td> <td>95</td> <td>525</td> <td>436</td> <td>494</td> <td>265</td> <td>640</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,944</td> <td>158</td> <td>1,785</td> <td>2,922</td> <td>6,824</td> <td>6,066</td> <td>3,346</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>医療機器等 (単位:百万円)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">計画</th> <th colspan="4">医療機器等</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10,101</td> <td>1,292</td> <td>899</td> <td>587</td> <td>506</td> <td>4,322</td> <td>3,728</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>179</td> <td>21</td> <td>71</td> <td>46</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>48</td> <td></td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>2,098</td> <td>289</td> <td>439</td> <td>314</td> <td>279</td> <td>506</td> <td>561</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,378</td> <td>1,602</td> <td>1,409</td> <td>947</td> <td>850</td> <td>4,838</td> <td>4,337</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	計画	施設整備				29年度見込		30年度見込		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783	2,555		こころ	1,205	32	119	623	194	18	261		子ども	2,260	95	525	436	494	265	640		合計	19,944	158	1,785	2,922	6,824	6,066	3,346		区分	計画	医療機器等				29年度見込		30年度見込		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	10,101	1,292	899	587	506	4,322	3,728		こころ	179	21	71	46	5	10	48		子ども	2,098	289	439	314	279	506	561		合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838	4,337		A	A	・総合病院では、先端医学棟の建設や電子カルテの更新を完了し、本館耐震改修及び立体駐車場の建設に着手するなど、大規模事業に積極的に取り組んだ。 こころの医療センターでは、初めて電子カルテを導入するとともに、空調設備など各種設備の改修を行った。 子ども病院では、新外来棟の増築や既存棟改修、電子カルテの更新を完了し、H30年度には本館リニューアル工事や院内保育所の建替え等に取り組む予定である。 器機類についても、総合病院の先端医学棟関係を中心に、各病院において情勢に応じた必要な整備を図りつつ、着実に施設及び器機等の整備を行うことができた。 全体として、計画の適切な見直しを図りつつ、着実に施設及び器機等の整備を行うことができた。 ・医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等を十分に充実させることができた。
区分	計画	施設整備						29年度見込		30年度見込																																																																																																						
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																									
総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783	2,555																																																																																																									
こころ	1,205	32	119	623	194	18	261																																																																																																									
子ども	2,260	95	525	436	494	265	640																																																																																																									
合計	19,944	158	1,785	2,922	6,824	6,066	3,346																																																																																																									
区分	計画	医療機器等				29年度見込		30年度見込																																																																																																								
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																									
総合	10,101	1,292	899	587	506	4,322	3,728																																																																																																									
こころ	179	21	71	46	5	10	48																																																																																																									
子ども	2,098	289	439	314	279	506	561																																																																																																									
合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838	4,337																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価	事務局確認事項																											
						説明	説明																													
	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	-	-	-	-	-	-																												
	(ア) 県立総合病院	I 1 (3) ケ (ア)																																		
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実を図る。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する24時間救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供	27	冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29</li> <li>・6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現し、増収見込み額は約75百万円となる見込み。(75,790円/日→118,680円/日等)</li> <li>・第2期中期期間(H26～30)</li> <li>・H27</li> <li>・循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(看護配置2:1)で10床稼働している。</li> <li>・心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもIIからIへのランクアップを実現した(増収額480万円/年)</li> <li>・H28</li> <li>・循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して12床へ拡大</li> </ul> <table border="1"> <caption>CCU/ICU稼働率 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>96.1</td> <td>100.5</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>110.2</td> <td>110.2</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>717</td> <td>738</td> <td>771</td> <td>742</td> <td>758</td> <td>758</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.1</td> <td>10.1</td> <td>10.3</td> <td>11.3</td> <td>13.2</td> <td>13.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	110.2	110.2	入室患者数(人)	717	738	771	742	758	758	1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.3	13.2	13.2	<p>冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。</p> <p>H29年6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現し、増収となる。</p> <p>入室患者数、稼働率ともに増加している。</p>	<p>冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。</p> <p>H28年7月に病床数を10床から12床に増床し、H29年6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現した。入室患者数、稼働率ともに増加している。</p>	<p>循環器病センターは24時間体制で稼働している。</p> <p>特定集中治療室管理料のランクアップによりH29増収が見込まれる。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	110.2	110.2																														
入室患者数(人)	717	738	771	742	758	758																														
1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.3	13.2	13.2																														
			28	脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29</li> <li>・先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が整備された。</li> <li>・超急性期脳卒中加算は増加している。(26件の見込み)</li> <li>・第2期中期目標期間(H26～30)</li> <li>・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。</li> <li>・脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科)</li> </ul> <table border="1"> <caption>脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>超急性期脳卒中加算 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	算定件数	38	42	68	52	40	40	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	算定件数	11	11	15	15	26	26	<p>先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が大幅に充実した。</p> <p>脳卒中の地域連携クリニカルパスの適用患者数は毎年40～50件前後で安定的に推移している。</p>	<p>先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が大幅に充実している。</p> <p>脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得した看護師がチーム医療に専従する体制をとっている。</p> <p>地域連携クリニカルパスも着実に運用されており在宅復帰に向けた取組も実施されていることがうかがえる。</p>	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
算定件数	38	42	68	52	40	40																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																														
算定件数	11	11	15	15	26	26																														

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期 (H26~30) 自己評価																																																	
						説明	説明	説明	事務局確認事項																																																
			29	生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	<p>・ H29 ・糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後の診療枠を追加する予定である。 ・指導に必要な検査（尿アルブミン値）の実施率が低いため、検査実施率の向上を検討する。 ・末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p> <p>・ 第2期中期目標期間（H26~30） 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会（下肢救済チーム）を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。</p> <p>糖尿病透析予防指導管理料 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要定件数</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>371</td> <td>132</td> <td>140</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table> <p>末梢動脈疾患 (PAD) 検査 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ABI</td> <td>1,125</td> <td>1,446</td> <td>1,725</td> <td>1,831</td> <td>2,062</td> <td>2,100</td> </tr> <tr> <td>SPP</td> <td>171</td> <td>143</td> <td>258</td> <td>220</td> <td>202</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>下肢動脈超音波</td> <td>73</td> <td>111</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>210</td> <td>210</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	要定件数	44	24	371	132	140	160	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	ABI	1,125	1,446	1,725	1,831	2,062	2,100	SPP	171	143	258	220	202	220	下肢動脈超音波	73	111	188	195	210	210	<p>循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。糖尿病透析予防指導、末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p>	<p>循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。糖尿病透析予防指導、末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p>	<p>・循環器内科と心臓血管外科が連携し、ハイブリッド手術室で行なわれるTAVI手術を実施している。また、糖尿病透析予防指導については、糖尿病・内分泌内科に加え、専門外来（そらまめ外来）を開設し活動している。 【合同検討会の実施状況】 平成28年度より、循環器内科、糖尿病内分泌科、腎臓内科、整形外科、皮膚科、形成外科などからなる、下肢救済チームが活動している。チームのメンバーは、医師、看護師、栄養士、理学療法士、検査技師などであり、診療科を跨いだ、他職種による活動を展開している。定期的な会議（平成28年度10回、平成29年度10回予定）を行い、情報共有するとともに、チーム活動の振り返りや、今後の活動予定などを協議している。</p>							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
要定件数	44	24	371	132	140	160																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
ABI	1,125	1,446	1,725	1,831	2,062	2,100																																																			
SPP	171	143	258	220	202	220																																																			
下肢動脈超音波	73	111	188	195	210	210																																																			
			30	ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>・ H29 ・先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、稼動を開始した。 ・ TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）68件（見込み）</p> <p>・ 第2期中期期間（H26~30） ・ H26年10月からハイブリッド手術室の稼動を開始した。 ・ TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）の施設基準を取得し、H27年度は4例実施した。H28年度は28例実施した。</p> <p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室稼働件数</td> <td>-</td> <td>71</td> <td>211</td> <td>163</td> <td>228</td> <td>328</td> </tr> <tr> <td>TAVI手術室稼働件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>41</td> <td>28</td> <td>68</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>トランスカテーテル大動脈弁置換術</td> <td>50</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>90</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>322</td> <td>306</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>438</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>94</td> <td>49</td> <td>188</td> <td>209</td> <td>246</td> <td>246</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	ハイブリッド手術室稼働件数	-	71	211	163	228	328	TAVI手術室稼働件数	-	-	41	28	68	95	トランスカテーテル大動脈弁置換術	50	80	81	107	90	139	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	PCI	322	306	515	517	438	438	アブレーション	94	49	188	209	246	246	<p>先端医学棟に同一手術室内での画像診断に基づく、精密で正確な手術が可能となるMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、高度専門医療の提供体制を充実した。ハイブリッド手術件数も順調に増加している。</p>	<p>H26年10月のハイブリッド手術室運用開始以降、使用件数は増加傾向で、TAVIの件数も順調に増加している。H28年度には東部地域の患者を集患するため東部地域の医師会に広報活動を実施した。 H29年度は先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、高度専門医療を提供した。ハイブリッド手術件数も順調に増加している。</p>	<p>先端医学棟内に3種類のハイブリッド手術室を整備し、医療提供体制を整備した。整備後の手術件数は昨年同時期に比べて5倍となっている(H27.9-10月: 22件→H28.9-10月: 110件)</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
ハイブリッド手術室稼働件数	-	71	211	163	228	328																																																			
TAVI手術室稼働件数	-	-	41	28	68	95																																																			
トランスカテーテル大動脈弁置換術	50	80	81	107	90	139																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
PCI	322	306	515	517	438	438																																																			
アブレーション	94	49	188	209	246	246																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価		事務局確認事項																																																																																																						
						説明	説明	説明	説明																																																																																																							
	<p>・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進の手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備するとともに、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。</p>	<p>I 1 (3) ケ (ア)</p>		<p>がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。</p>	<p>・H29 胃がんにロボット支援手術の適用を拡大した。 ・10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能な運用体制を整備した。 ・麻酔科医5名の増員が実現できた。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。 ・H26 前立腺がん、子宮頸がんにダヴィンチを用いた手術を開始 ・H27 膀胱がんにダヴィンチの適用を拡大した。 ・H28 大腸がんにダヴィンチの適用を拡大した。 H28.10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療開始 H28.12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始(全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初)</p> <p>がん手術件数 (がん登録と回線の病名1CDコードにて対象患者を抽出) (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>158</td> <td>149</td> <td>135</td> <td>136</td> <td>151</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>246</td> <td>262</td> <td>310</td> <td>264</td> <td>263</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>87</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>135</td> <td>112</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>130</td> <td>156</td> <td>164</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>285</td> <td>320</td> <td>334</td> <td>343</td> <td>343</td> <td>343</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,028</td> <td>1,107</td> <td>999</td> <td>1,131</td> <td>1,125</td> <td>1,125</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>1,906</td> <td>2,076</td> <td>2,011</td> <td>2,135</td> <td>2,126</td> <td>2,126</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>6,867</td> <td>7,230</td> <td>7,753</td> <td>7,764</td> <td>8,009</td> <td>8,009</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>27.8</td> <td>28.7</td> <td>25.9</td> <td>27.5</td> <td>26.5</td> <td>26.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>がん検診受診・処置(H29.9実績) (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>胃がん</th> <th>大腸がん</th> <th>肝がん</th> <th>肺がん</th> <th>乳がん</th> <th>その他</th> <th>合計</th> <th>全体</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>98</td> <td>24</td> <td>19</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>322</td> <td>493</td> <td>5,060</td> <td>9.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15,072</td> <td>15,545</td> <td>16,384</td> <td>16,330</td> <td>16,330</td> <td>16,730</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	胃がん	158	149	135	136	151	151	大腸がん	246	262	310	264	263	263	肝がん	87	135	133	135	112	112	肺がん	110	114	130	156	164	141	乳がん	285	320	334	343	343	343	その他	1,028	1,107	999	1,131	1,125	1,125	がん手術合計	1,906	2,076	2,011	2,135	2,126	2,126	手術全体	6,867	7,230	7,753	7,764	8,009	8,009	がん手術割合	27.8	28.7	25.9	27.5	26.5	26.5	区分	胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	その他	合計	全体	割合	件数	98	24	19	0	0	322	493	5,060	9.7	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	15,072	15,545	16,384	16,330	16,330	16,730	<p>説明</p> <p>先端医学棟1階に最新鋭の大型放射線機器に対応できる放射線治療室4室を整備した。加えて先端医学棟手術室にロボット支援手術室や内視鏡手術室を整備するなど高度ながん手術が安全に行われている。10月からはダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能となり、手術件数、放射線治療とも十分に提供できている。</p>	<p>説明</p> <p>がん手術件数及び放射線治療件数は、H25年度に比して、着実に増加している。H29年度は先端医学棟1階に最新鋭の大型放射線機器に対応できる放射線治療室4室を整備した。加えて先端医学棟手術室にロボット支援手術室や内視鏡手術室を整備するなど高度ながん手術が安全に行われている。10月からはダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能となり、手術件数、放射線治療とも十分に提供できている。</p> <p>また、H26～29において、麻酔科医6名、消化器内科4名を増員し、体制強化に努めている。</p>	<p>事務局確認事項</p> <p>・先端医学棟手術室に放射線治療室:4室や手術支援ロボット(ダヴィンチ)を追加導入したほか麻酔科医を増員(+5人)するなど、がん患者の診療体制が格段に向上した。 ・先端医学棟の稼働以降、ダヴィンチ手術件数は34件(H29.9-10月)と前年同月比13件増加している。 ・なお、放射線科医・消化器内科医の確保について取組み、目処がたっている。 (No.35と類似)</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
胃がん	158	149	135	136	151	151																																																																																																										
大腸がん	246	262	310	264	263	263																																																																																																										
肝がん	87	135	133	135	112	112																																																																																																										
肺がん	110	114	130	156	164	141																																																																																																										
乳がん	285	320	334	343	343	343																																																																																																										
その他	1,028	1,107	999	1,131	1,125	1,125																																																																																																										
がん手術合計	1,906	2,076	2,011	2,135	2,126	2,126																																																																																																										
手術全体	6,867	7,230	7,753	7,764	8,009	8,009																																																																																																										
がん手術割合	27.8	28.7	25.9	27.5	26.5	26.5																																																																																																										
区分	胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	その他	合計	全体	割合																																																																																																							
件数	98	24	19	0	0	322	493	5,060	9.7																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
件数	15,072	15,545	16,384	16,330	16,330	16,730																																																																																																										
	<p>外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の実施を図る。</p>			<p>・H29 ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30) ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 ・H26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出力され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。 ・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材室跡地に移転する設計を完了した。</p> <p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>9,733</td> <td>9,963</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,470</td> <td>11,570</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,470	11,570	<p>説明</p> <p>外来化学療法が順調に伸びている。オブジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。</p>	<p>説明</p> <p>外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。H28には認定薬剤師の配置を4名から6名へ増員し、オブジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。</p> <p>また、院内改修に伴う外来化学療法センターの移転計画も着実に進んでいる。</p>	<p>事務局確認事項</p> <p>・専門の認定看護師・薬剤師の配置等により診療報酬上の外来化学療法加算件数は年々増加傾向にある。 ・また、H31～H32に外来化学療法センターの移転を計画しており更に環境整備が図られる見込み。 ・課題としていた腫瘍内科医の確保については引き続き取り組んでいる。 ・オブジーボ件数は以下</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>件数</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オブジーボ 全薬品</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>17</td> <td>28</td> <td>38</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オブジーボ 全薬品</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>23</td> <td>30</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	件数	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度見込	オブジーボ 全薬品	1	1	17	28	38		オブジーボ 全薬品	0	0	6	23	30																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																										
件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,470	11,570																																																																																																										
区分	件数	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度見込																																																																																																										
オブジーボ 全薬品	1	1	17	28	38																																																																																																											
オブジーボ 全薬品	0	0	6	23	30																																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価	事務局確認事項																																																		
						説明	説明																																																				
			33	地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29 緩和ケアチーム介入症例数 H29年度上半期実績：198件 (5 E病棟142件、5 E病棟外56件)</li> <li>・ 第2期中期目標期間 (H26～30)</li> </ul> <table border="1"> <caption>緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>396</td> <td>400</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	症例数	426	381	403	372	396	400	A-	<p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。</p>	A-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院後に在宅ケアに関わる多職種が情報共有しケアの方向性を調整する退院前カンファレンスを随時開催している (H29年9月時点:64回)</li> <li>・ 緩和ケアチームが介入する症例数も維持している。</li> <li>・ 課題としている「精神科医の不在」について、現時点では解消していないが、こころの医療センター・こども病院の精神科医の充足状況を見ながら配置について検討している。</li> </ul>																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																					
症例数	426	381	403	372	396	400																																																					
			34	がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん相談件数 (単位:件)</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>4,460</td> <td>4,460</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	4,460	4,460	A	<p>H28年度からがん相談体制を強化し、がん関連の各種認定看護師、がん看護専門看護師が相談に当たっていることに加えて、入院センター、地域連携室の看護師もがん相談に対応していることから相談件数が増加している。</p>	A	<p>H25に比して、相談に対応する部署、看護師の増加によりH26～29のがん相談件数が大幅に増加した。特にH28年度からがん相談体制を強化し、がん関連の各種認定看護師、がん看護専門看護師が相談に当たっていることに加えて、入院センター、地域連携室の看護師もがん相談に対応していることから相談件数が増加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専従の相談看護師7名体制でがん相談に応じているなど相談体制は充実しており、相談件数は年々増加している。</li> </ul>																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																					
がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	4,460	4,460																																																					
			35	ロボット支援手術の件数増加に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29 臨床研究 胃がんロボット支援手術の適用を拡大した。ロボット支援手術(消化器外科領域 大腸・胃) 28件実施見込み</li> <li>・ 10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能な運用体制を整備した。</li> <li>・ 第2期中期期間 (H26～30)</li> <li>・ 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。</li> <li>・ 臨床研究 H28 ロボット支援手術(消化器外科領域) 9件実施 H29 ロボット支援手術(消化器外科領域) 28件実施見込み</li> <li>・ 適応疾患の拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H26 前立腺がん、子宮頸がんダヴィンチを用いた手術を開始</li> <li>・ H27 膀胱がんに適用を拡大した。</li> <li>・ H28 大腸がんに適用を拡大した。</li> </ul> </li> <li>・ H28.10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療開始</li> <li>・ H28.12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始(全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初)</li> </ul> <table border="1"> <caption>ダヴィンチ使用手術件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>-</td> <td>31</td> <td>77</td> <td>102</td> <td>128</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>28</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>36</td> <td>81</td> <td>112</td> <td>156</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>ダヴィンチ使用者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	泌尿器科	-	31	77	102	128	130	婦人科	-	5	4	1	-	-	消化器外科	-	-	4	9	28	30	計	0	36	81	112	156	160	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	人数	-	5	6	6	7	7	A	<p>10月よりダヴィンチの運用が2台となり、2件の手術を並行して2件実施できるようになった。術式は泌尿器科の前立腺や腎臓の腫瘍摘出手術に加え消化器領域の胃、大腸に実施している。件数、適応疾患ともに増加している。</p>	A	<p>H26年度から前立腺がん、子宮頸がんダヴィンチを用いた手術を開始した。平成27年は更に膀胱がんにも適用を拡大した。H28年度は100件を超える手術を実施し着実に増加している。また、自由診療、先進医療についても随時拡大を行った。H28年10月にはダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療を開始した。加えて12月にはダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術を全国5番目(大学病院以外では全国初)に先進医療として実施している。H29年度は胃がんにも適用が拡大し、ロボット支援手術は120件を超える見込み。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29.10月から先端医学棟の手術室にダヴィンチを追加導入し2台体制となった。稼働以降、ダヴィンチ手術件数は34件(H29.9-10月)と前年同月比13件増加しており導入効果が現れている。適用対象も順次拡大している。(No.31と類似)</li> </ul>
診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																					
泌尿器科	-	31	77	102	128	130																																																					
婦人科	-	5	4	1	-	-																																																					
消化器外科	-	-	4	9	28	30																																																					
計	0	36	81	112	156	160																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																					
人数	-	5	6	6	7	7																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価																																																																																
						説明	説明																																																																															
	・救命救急センターとして一層の充実を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応するため、高度救命救急センターを目指した整備を図る。	<p>重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営</p> <p>①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成</p> <p>②集中治療専門医の確保</p> <p>③救急搬送患者の受入体制の充実</p>	36	医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	<p>・ H29</p> <p>・ H29年度は救急科医師7名体制で稼働</p> <p>・ 第2期中期目標期間 (H26～30)</p> <p>・ 医師の変則勤務の試行を継続し、直当明けに休める制度を整えた。</p> <p>・ H25年7月から、救急科医師5名体制 (うち専門医2名) により、救命救急センターが稼働した。</p> <p>・ H27年3月から高度救命救急センターに指定</p> <p>・ H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名体制で稼働</p> <p>医師の変則勤務稼働状況 (単位: %)</p> <table border="1"> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>派遣者 (人)</td> <td>1,353</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,792</td> <td>1,792</td> </tr> <tr> <td>利用者 (人)</td> <td>868</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>914</td> <td>914</td> </tr> <tr> <td>利用率 (%)</td> <td>55.2</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.0</td> <td>51.0</td> </tr> </table> <p>※派遣者：変則勤務を行ったこと&lt;医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	派遣者 (人)	1,353	1,547	1,444	1,634	1,792	1,792	利用者 (人)	868	924	935	961	914	914	利用率 (%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.0	51.0	A	<p>救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持している</p>	<p>救命救急センターとして一層の充実を図るため、救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持しており、中期目標が十分達成されている。</p> <p>・ 救急科は前年度から1名減 (7名体制) の体制だが、外業業務や宿日直業務等の割当調整により勤務体制は維持されている。</p> <p>・ また、医師の変則勤務では対象者の半数以上の者が利用しており、救急受入体制を維持しながらも働きやすい勤務環境も整備されている。</p>																																																		
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																
派遣者 (人)	1,353	1,547	1,444	1,634	1,792	1,792																																																																																
利用者 (人)	868	924	935	961	914	914																																																																																
利用率 (%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.0	51.0																																																																																
			37	・ 救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	<p>救急車受入率 (単位: %)</p> <table border="1"> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>当日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>95.3</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>92.3</td> <td>92.3</td> </tr> </table> <p>特殊疾病患者受入数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr> <th>疾病名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>539</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>776</td> </tr> </table> <p>ドクターカー出動状況 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> </table> <p>・ ドクターカー協定締結状況</p> <p>・ H26 静岡市</p> <p>・ H27 富士市、富士宮市</p> <p>・ H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町 川根本町</p> <p>・ H29 志太消防本部と協議中 (焼津市、藤枝市)</p>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	当日	97.4	94.2	97.1	96.5	95.3	95.5	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	92.3	92.3	疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	重症熱傷	4	7	14	12	12	12	重症外傷	249	293	368	446	539	539	急性中毒	2	5	18	18	18	18	病院外心停止	127	202	210	207	207	207	計	382	507	610	683	776	776	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	2	4	7	12	12	15	A	<p>救急車の受入を断らない体制が維持され、救急車の受入台数及び受入率も順調に増加している。</p>	<p>・ 当番日における救急搬送の受入において95%以上の受入率を達成しており受入体制が維持されている。(受入不可の例：外科当番日に内科系の患者搬送希望があった場合等)</p> <p>・ 厚生労働省が実施する「救命救急センターの充実段階評価」では、最も良い評価であるA評価を取得</p> <p>・ 重症度の高い患者の受入件数も年々増加しており (ドクヘリ搬送患者：40人；H29年9月時点)、診療体制が維持できている</p> <p>・ ドクターカーについては出動件数は増加する見込み。また、運用拡大に向けては志太地域 (焼津市・藤枝市) と協議予定で本年度中の協定締結を目指している (状況：志太消防本部では、まず初めに藤枝市立病院と協定を結び、その後に県立総合病院の順となること。藤枝市立病院との協定が進んでおらず、現段階では待ちの状況である。)</p>	
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																
当日	97.4	94.2	97.1	96.5	95.3	95.5																																																																																
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	92.3	92.3																																																																																
疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																
重症熱傷	4	7	14	12	12	12																																																																																
重症外傷	249	293	368	446	539	539																																																																																
急性中毒	2	5	18	18	18	18																																																																																
病院外心停止	127	202	210	207	207	207																																																																																
計	382	507	610	683	776	776																																																																																
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																
件数	2	4	7	12	12	15																																																																																
	(イ) 県立こころの医療センター	<p>県立こころの医療センター診療事業</p> <p>県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。県民に提供する医療&lt;業務の予定量&gt;</p> <p>病床数 280床</p> <p>精神病床 280床</p> <p>外来患者 38,942人</p> <p>入院患者 55,956人</p>	1 1 (3) ケ (イ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																										
	・24時間を通して精神科救急医療相談に応じるとともに、救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	<p>精神科救急・急性期医療の提供体制の充実</p> <p>①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備</p> <p>②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備</p>	38	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	<p>・ 県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。</p> <p>・ 当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。</p> <p>・ 当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を登録し周知を図った。</p> <p>こころ</p> <p>精神科救急ダイヤル件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>24時間体制</td> <td>4,402</td> <td>2,565</td> <td>4,772</td> <td>3,392</td> <td>4,314</td> <td>4,314</td> </tr> <tr> <td>15時間体制</td> <td>1,997</td> <td>4,499</td> <td>3,134</td> <td>2,082</td> <td>3,400</td> <td>3,300</td> </tr> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	24時間体制	4,402	2,565	4,772	3,392	4,314	4,314	15時間体制	1,997	4,499	3,134	2,082	3,400	3,300	A	<p>24時間体制で精神科救急医療相談に応じ、新たな入院患者が早期退院し社会復帰できるよう精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めた結果、救急ダイヤル件数は、前年に比べて、大幅な増加となった。</p>	<p>期間を通じて、24時間を通して精神科救急医療相談に応じるとともに、救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めた。期間中、相談件数は多く、今後もこの状態を維持するため、一層の周知を図る。</p>	<p>・ 24時間体制で対応する精神科救急ダイヤルを継続しており、年間4,000件を超える相談に対応している。</p> <p>・ H21年度から電話相談部門が一元化され、外来看護師が通院患者へのケアに集中できる体制が整備されている。</p> <p>・ 精神科救急入院料を算定する病棟 (2棟) を維持している。</p>																																																								
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																
24時間体制	4,402	2,565	4,772	3,392	4,314	4,314																																																																																
15時間体制	1,997	4,499	3,134	2,082	3,400	3,300																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																																																								
						説明	説明	説明	説明																																																									
			39	新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	<p>早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2）、急性期治療病棟（北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。</p> <table border="1"> <caption>新規患者率 (単位: %)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>期別</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">救急</td> <td>南2</td> <td>77.8</td> <td>72.6</td> <td>71.8</td> <td>73.2</td> <td>73.8</td> <td>73.3</td> </tr> <tr> <td>北2</td> <td>86.0</td> <td>78.9</td> <td>88.8</td> <td>78.4</td> <td>75.8</td> <td>75.9</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>新規患者3ヶ月以内在院移行率 (単位: %)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>期別</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">救急</td> <td>南2</td> <td>82.0</td> <td>77.5</td> <td>89.9</td> <td>81.2</td> <td>88.5</td> <td>88.3</td> </tr> <tr> <td>北2</td> <td>78.0</td> <td>82.6</td> <td>85.0</td> <td>82.3</td> <td>81.0</td> <td>81.3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	期別	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	救急	南2	77.8	72.6	71.8	73.2	73.8	73.3	北2	86.0	78.9	88.8	78.4	75.8	75.9	区分	期別	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	救急	南2	82.0	77.5	89.9	81.2	88.5	88.3	北2	78.0	82.6	85.0	82.3	81.0	81.3	A	精神科救急入院料の施設基準を維持するため、新規入院患者が90日以内に退院できるよう早期退院を促進した。	A	<p>期間を通じて、24時間を通して救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう精神科救急・急性期医療の提供に努めた。</p> <p>今後も、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南2・北2病棟では精神科救急入院料を算定できる基準：60%を大幅に上回るとともに、新規患者率も75%（基準：40以上）を達成しており、早期退院の促進が図られている。</li> <li>精神科救急ダイヤルでの対応と合わせて精神科患者の地域移行の取組が進められている。</li> </ul>										
区分	期別	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
救急	南2	77.8	72.6	71.8	73.2	73.8	73.3																																																											
	北2	86.0	78.9	88.8	78.4	75.8	75.9																																																											
区分	期別	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
救急	南2	82.0	77.5	89.9	81.2	88.5	88.3																																																											
	北2	78.0	82.6	85.0	82.3	81.0	81.3																																																											
	・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組	40	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施する。	<p>・H29 H21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26~30）</p> <table border="1"> <caption>m-ECT実施件数 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数(件)</td> <td>370</td> <td>330</td> <td>390</td> <td>605</td> <td>714</td> <td>714</td> </tr> <tr> <td>実施患者数</td> <td>56</td> <td>68</td> <td>53</td> <td>51</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>26</td> <td>30</td> <td>23</td> <td>48</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	実施件数(件)	370	330	390	605	714	714	実施患者数	56	68	53	51	60	60	中部地区	53	61	47	51	55	55	(静岡市)	26	30	23	48	45	45	東部地区	1	3	4	2	2	2	西部地区	1	3	1	1	2	2	その他	1	1	1	0	0	0	A	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、精神科医療では高度医療とされるm-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施し、H28年度と比べて100程度程度の増となる見込みである。	A	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療であるm-ECTの治療に積極的に取り組んだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施者数・延件数ともに増加しており、他の医療機関では対応困難な患者への対応が可能な体制が維持されている。</li> <li>m-ECTの安定した実施体制の整備のために「麻酔科医の確保」が引き続き課題とされているが、他病院からの医師の協力により、継続して実施している。</li> </ul>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																												
実施件数(件)	370	330	390	605	714	714																																																												
実施患者数	56	68	53	51	60	60																																																												
中部地区	53	61	47	51	55	55																																																												
(静岡市)	26	30	23	48	45	45																																																												
東部地区	1	3	4	2	2	2																																																												
西部地区	1	3	1	1	2	2																																																												
その他	1	1	1	0	0	0																																																												
			41	先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	<p>・クロザピンによる治療体制が整い、H22年4月27日、クロザリン適正使用委員会において、CPMS（クロザリン患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。</p> <p>・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <p>・H23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、これまでに41名の患者に投与している。現在30名に対して継続投与中である。</p> <table border="1"> <caption>クロザピン投与患者数 ※3月31日現在投与患者数 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	患者数	9	19	23	30	30	30	A	他の医療機関では対応困難な難治性の統合失調症に高い効果を示す先端薬物療法を積極的に実施した。	A	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療である先端薬物療法（クロザピン投与）に積極的に取り組んだ。</p> <p>クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロザピンの使用は安全管理体制を担保するため一定の要件を満たした医療機関に限定され、現在、県内8施設での実施に限られている。</li> <li>安全管理体制の整備が義務付けられる中、H23年度以降、継続して実施可能な体制が整っている。</li> </ul>																																										
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																												
患者数	9	19	23	30	30	30																																																												
			42	心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	<p>・H29 入院・外来患者心理教室4クール開催 参加者延114名 (H29.9.30現在)</p> <p>・第2期中期目標期間（H26~30） H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施した。</p> <p>心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めた。</p> <table border="1"> <caption>心理教育参加者数 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>34</td> <td>54</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>228</td> <td>228</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>心理教育研修会参加者数 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>41</td> <td>162</td> <td>66</td> <td>142</td> <td>168</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	参加者数	34	54	172	206	228	228	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	参加者数	41	162	66	142	168	168	A	薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理・社会的治療についての取組を積極的に実施した。	A	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対して、薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理教育に積極的に取り組んだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理教育への参加者は年々増加している。</li> <li>また、院内研修会が継続的に行われるとともに院内での推進委員会を毎月行い、従事者の理解促進・スキルアップを図っている。</li> <li>※心理教育とは、病気に必要な知識を提供するとともに地域で暮らす力に身を付けさせることで、医療機関での治療から精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行われる支援法をいう。</li> </ul>																												
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																												
参加者数	34	54	172	206	228	228																																																												
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																												
参加者数	41	162	66	142	168	168																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29-中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																																															
						説明	説明																																																		
	・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	43	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<p>・H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施した。 H22年2月の支援開始以来延べ21名の支援活動を実施し、うち9名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、H29は、外来患者9名への支援を継続している。</p> <table border="1"> <caption>ACT支援状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>活動状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="6">多職種による訪問前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	対象者							外来	6人	6人	5人	7人	9人	9人	入院	2人	1人	2人	0人	0人	0人	活動状況							外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院	多職種による訪問前訪問、ケースカンファレンス						<p>在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制により退院後の地域生活を支援した。</p>	<p>期間を通じ、入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築に努めた。 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につながるような働きかけが必要である。</p>	<p>・入退院を繰り返す患者等の退院後の地域生活を支援する体制を構築することで患者の社会復帰を促進することが求められる中、多職種で構成する在宅ケアチームによる包括的な支援は有効である。 ・支援終了した者に対しても外来診療等を通じて継続してフォローしている。 ・多職種チームによる支援には医療スタッフの確保が必要であるが、継続して支援体制が確保できている。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
対象者																																																									
外来	6人	6人	5人	7人	9人	9人																																																			
入院	2人	1人	2人	0人	0人	0人																																																			
活動状況																																																									
外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																								
入院	多職種による訪問前訪問、ケースカンファレンス																																																								
	・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与	44	医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	<p>・H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。 ・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降ほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。</p> <table border="1"> <caption>医療観察法指定医療機関の稼働状況</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>96.3</td> <td>97.3</td> <td>97.4</td> <td>99.3</td> <td>96.9</td> <td>96.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	病床数(床)	10	10	10	10	10	10	病床利用率(%)	96.3	97.3	97.4	99.3	96.9	96.9	<p>年間を通じて満床に近い状態が続いており、医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮した。</p>	<p>「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たした。 今後も、よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。</p>	<p>・高い病床利用率：96.9%を維持しており医療観察法の指定医療機関としての体制が維持されている。 ・全国の指定医療機関の従事者が参加する研修会に8名が参加することで、情報共有とともにスタッフの資質向上が図られている。</p>																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
病床数(床)	10	10	10	10	10	10																																																			
病床利用率(%)	96.3	97.3	97.4	99.3	96.9	96.9																																																			
	(ウ) 県立こども病院	1 1 (3) ケ (ウ)																																																							
	県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 105,234人 入院患者 81,038人																																																								

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価																																																																																																																							
						説明	説明	事務局確認事項																																																																																																																							
	<p>・小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な先進的治療を提供するため、ハイブリッド手術室等の先進設備を整備する。加えて、小児心疾患治療のリーディング施設として専門医等の育成に努める。</p>	<p>1 1 (3) (ケ) (ウ)</p>		<p>①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小児集中治療科(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤ハイブリッド手術の小児への適用症例拡大を検討する。</p>	<p>・H28年に循環器病棟に準重症患者対応病室を設置し、順調に運用されている。 ・H29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、現在稼働中である。</p> <table border="1"> <caption>CCU稼働率 (単位:人、%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>3,307</td> <td>3,553</td> <td>3,745</td> <td>3,297</td> <td>3,192</td> <td>3,331</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>90.61</td> <td>87.21</td> <td>85.93</td> <td>87.41</td> <td>85.9</td> <td>91.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>121</td> <td>133</td> <td>156</td> <td>170</td> <td>188</td> <td>154</td> </tr> </tbody> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	3,192	3,331	病床稼働率	90.61	87.21	85.93	87.41	85.9	91.3	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	実施件数	121	133	156	170	188	154	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	6	12	12	8	10	10	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	2	8	<p>説明</p> <p>・心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。 ・準重症患者対応病室を設置し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図った。 ・H28年度に導入した小児用補助人工心臓は稼働中である。 ・ハイブリッド手術室では手術を行い実績を重ねるとともに、心臓カテーテル治療件数も順調に推移している。</p>	<p>説明</p> <p>H26年度にハイブリッド手術室を設置し、H28年度には小児用補助人工心臓の導入と準重症患者対応病室を設置するなど循環器治療の更なる充実を図った。</p>	<p>事務局確認事項</p> <p>・CCU稼働率、心臓カテーテル治療実績、ハイブリッド手術実績等の件数が維持されており、小児重症患者の受入体制が確保されていることが分かる。 ・H28年度末に設置したCCUの後方支援病室である準重症患者対応室の運用も順調に行われている。 ・小児補助人工心臓の継続運用など、小児循環器治療体制が充実されている。 ・心エコーの遠隔診断については県内4病院と連携して実施しており、H29には岩手医科大学とテレビ会議システムによるカンファレンスを行った。</p>																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
入院患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	3,192	3,331																																																																																																																									
病床稼働率	90.61	87.21	85.93	87.41	85.9	91.3																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
実施件数	121	133	156	170	188	154																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
件数	6	12	12	8	10	10																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																																																																									
症例数	15	9	7	5	2	8																																																																																																																									
	<p>・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。</p>			<p>①地域の産科医療機関との前方・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じ産科医の診断能力向上を図る。 ②最新式の超音波診断装置を導入する。 ③必要に応じNICU内での手術を継続実施する。</p>	<p>地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>331</td> <td>961</td> <td>743</td> <td>637</td> <td>605</td> <td>655</td> </tr> </tbody> </table> <p>NICU診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>5,444</td> <td>5,410</td> <td>5,927</td> <td>6,411</td> <td>6,160</td> <td>6,285</td> </tr> </tbody> </table> <p>GCI診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>5,014</td> <td>4,863</td> <td>4,679</td> <td>4,855</td> <td>4,356</td> <td>4,753</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>76.3</td> <td>74.0</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>66.3</td> <td>72.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>MFICU診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>2,095</td> <td>2,087</td> <td>2,098</td> <td>2,007</td> <td>2,114</td> <td>2,080</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.7</td> <td>95.3</td> <td>95.5</td> <td>91.6</td> <td>96.5</td> <td>95.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>新生児出生体重別入院患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>体重(kg)</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500未満</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>33</td> <td>48</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>26</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>48</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>166</td> <td>148</td> <td>160</td> <td>144</td> <td>138</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>242</td> <td>225</td> <td>209</td> <td>192</td> <td>224</td> </tr> </tbody> </table> <p>・NICU内の手術は、H25年度に3件、H26年度に3件を行った。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	研修会等回数	7	17	14	10	10	12	参加者数	331	961	743	637	605	655	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,160	6,285	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,356	4,753	病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	66.3	72.3	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院患者数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,114	2,080	病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	96.5	95.0	体重(kg)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	500未満	3	2	3	7	4	4	500~1,000	33	48	26	36	26	34	1,000~1,500	48	44	36	22	24	35	1,500以上	166	148	160	144	138	151	合計	250	242	225	209	192	224	<p>説明</p> <p>・地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図っている。 ・NICUの入院患者数は一定の水準にある。 ・他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。</p>	<p>地域の医療機関との連携のもと、超低体重出生児治療など県内の新生児医療の充実を寄与できた。 NICU稼働病床数の増加により入院患者数は増加し高度な専門的治療を提供できた。 H28に超音波診断装置を新たに整備した。</p>	<p>事務局確認事項</p> <p>・NICU、GCU、MFICU等の診療実績より、ハイリスク出産に対応可能な体制が維持できていることが分かる。 ・地域医療機関向け研修として、医師・看護師向けの症例検討会や講習会等を継続して開催しており、地域の周産期医療のレベルアップを寄与できた。 NICU稼働病床数の増加により入院患者数は増加し高度な専門的治療を提供できた。 H28に超音波診断装置を新たに整備した。 ・地域の産科医療機関との連携について中部地区の医師を招いての周産期症例検討会や看護師、助産師を交えてのスキルアップ研修を実施している。 平成28:10回637人 平成29.9末:3回131人</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
研修会等回数	7	17	14	10	10	12																																																																																																																									
参加者数	331	961	743	637	605	655																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
入院患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,160	6,285																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
入院患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,356	4,753																																																																																																																									
病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	66.3	72.3																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
入院患者数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,114	2,080																																																																																																																									
病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	96.5	95.0																																																																																																																									
体重(kg)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
500未満	3	2	3	7	4	4																																																																																																																									
500~1,000	33	48	26	36	26	34																																																																																																																									
1,000~1,500	48	44	36	22	24	35																																																																																																																									
1,500以上	166	148	160	144	138	151																																																																																																																									
合計	250	242	225	209	192	224																																																																																																																									
	<p>・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。</p>			<p>①静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。</p>	<p>血液腫瘍科患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,645</td> <td>3,396</td> <td>3,533</td> <td>3,691</td> <td>3,676</td> <td>3,676</td> </tr> </tbody> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>小児がん登録件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録件数</td> <td>12</td> <td>97</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H28年度から、2ヶ月に1回、県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施している。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院	9	9	14	4	4	3	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,676	3,676	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	骨髄移植	9	9	14	4	4	3	臍帯血	1	1	0	2	2	1	自家末梢血	2	2	8	5	3	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	9	13	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	登録件数	12	97	46	61	90	90	<p>説明</p> <p>・静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受け入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもと対応している。 ・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを行い、連携を図っている。</p>	<p>県内の小児がん治療の中心病院として、県立がんセンターとの連携など診療の更なる充実を図った。</p>	<p>事務局確認事項</p> <p>・県内小児がん患者の半数以上を受け入れるほか、造血幹細胞移植など高度な集学的治療に積極的に取り組んでいる。 ※「がんセンター」の共同カンファレンスについては平成27以前も継続して行っていますが、回数は集計していない。 効果:陽子線治療を行うにあたり、がんセンター小児科、陽子線治療科と連携してカンファレンスを実施している。 ・課題としていた「がん登録の推進」については、各種研修会に参加するなどスキルアップを図っており、登録件数は前年度から増加する見込み。</p>																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
入院	9	9	14	4	4	3																																																																																																																									
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,676	3,676																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
骨髄移植	9	9	14	4	4	3																																																																																																																									
臍帯血	1	1	0	2	2	1																																																																																																																									
自家末梢血	2	2	8	5	3	4																																																																																																																									
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																																																																									
計	13	13	13	11	9	13																																																																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																									
登録件数	12	97	46	61	90	90																																																																																																																									



中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価																																										
						説明	説明	事務局確認事項																																										
			52	児童精神科医の育成に努める	<p>有期職員医師を1名採用し(H25年度から延べ5名)、専門的な児童精神科医を育成している。</p> <p>有期職員医師採用実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>採用人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	採用人数	1	1	1	1	1	1	<p>説明</p> <p>児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。</p>	<p>説明</p> <p>期間中継続して、児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行っている。</p>	<p>事務局確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>育成した児童精神科医が県内外の病院で勤務医となる等、地域医療に継続して貢献している。</li> </ul>																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																												
採用人数	1	1	1	1	1	1																																												
第2	第2	1 2	53	業務運営に必要な人材の確保に努める。	<p>総合病院正規職員数(医師除く) 各年度4月1日時点(単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度予定</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>810</td> </tr> <tr> <td>医療技術者</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>55</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	看護師	646	654	678	748	804	810	医療技術者	184	196	215	211	208	208	事務	38	41	49	51	52	55	<p>説明</p> <p>人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、29年度臨時採用を含め68名(H29年9月26日現在採用内定応募者数)の看護師を採用した。</p>	<p>説明</p> <p>H25年より看護師の紹介業者を通じた採用を行い、H27年度より人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、看護師必要数はほぼ確保された。</p>	<p>事務局確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師数が大幅に増加しているが、職員数は現員数をもとに収支状況を勘案し臨機応変に検討されている。</li> <li>院長代理を中心としたキャラバン隊を編成して県外養成校42校を訪問するなど看護師確保の取組が積極的に行われている。(H28訪問先養成校:47校からの受験者4人(合格者3人))</li> </ul>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																												
看護師	646	654	678	748	804	810																																												
医療技術者	184	196	215	211	208	208																																												
事務	38	41	49	51	52	55																																												
<p>優秀な医師、看護師等医療従事者を確保し、育成するため、魅力ある病院として、これら医療従事者から評価され選ばれるよう、研修機能の充実・強化を図ること。また、国内外との交流による研修の充実にも努めること。</p>	<p>県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制の整備や就労環境の向上などを図ることにより、優秀な人材の確保に努めるとともに、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。</p>		54	研修医の確保に努める。	<p>初期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>初期臨床研修医</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度予定</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>19(2)</td> <td>22(2)</td> <td>20(2)</td> <td>21(2)</td> <td>22(2)</td> <td>23(3)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>18(3)</td> <td>18(2)</td> <td>22(2)</td> <td>19(2)</td> <td>21(2)</td> <td>20(2)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37(5)</td> <td>40(4)</td> <td>42(4)</td> <td>40(4)</td> <td>43(4)</td> <td>43(5)</td> </tr> </table> <p>※( )うち自治医科大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>後期臨床研修医</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度予定</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>42</td> <td>50</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>54</td> </tr> </table>	初期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	23(3)	2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	43(5)	後期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	42	50	54	58	50	54	<p>説明</p> <p>H29年度は、初期臨床研修医1年生22名、2年生21名の合計43名を確保した。後期研修医は50名を確保した。</p>	<p>説明</p> <p>研修医の確保については、年度ごとの計画の人数を確保できている。</p>	<p>事務局確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修医数は堅調に推移している。</li> <li>後期臨床研修後も県内病院に定着する医師の確保に努めている。</li> </ul> <p>【総合】 H29年3月に17名の後期研修医が退職したが、うち2名が当院勤務となり6名が県内他病院勤務となった。</p> <p>【ところ】 第2期中期計画における計画期間中に後期研修終了後にこころの医療センターに定着した医師は、3人中2人(1人は勤務先不明)【こども】年度終了時点のこども病院勤務医の人数</p>
初期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																												
1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	23(3)																																												
2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)																																												
計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	43(5)																																												
後期臨床研修医	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																												
人数	42	50	54	58	50	54																																												
					<p>後期研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度予定</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	3	2	2	4	4	4	<p>説明</p> <p>研修医の確保については、計画どおりとなっている。</p>	<p>説明</p> <p>研修による育成を通じ、後期研修医の確保ができた。</p> <p>新専門医制度へも対応し、H30年度開始に向け、H29年度にプログラムを作成した。</p>	<p>事務局確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H25:1名、H26:2名、H27:3名(うち1名県内他病院)、H28:3名(うち1名県内他病院)</li> </ul>																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																												
人数	3	2	2	4	4	4																																												
					<p>後期研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度予定</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	14	15	16	16	15	15	<p>説明</p> <p>後期研修医は定員どおり受け入れている。</p> <p>新専門医制度へも対応し、今年度から新プログラムで研修を行っている。</p>	<p>説明</p> <p>後期研修医は期間中定員どおり受け入れた。</p> <p>新専門医制度へも対応し、H29年度から新プログラムで研修を行っている。</p>	<p>事務局確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※新専門医制度の募集状況はNo. 89</li> </ul>																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																												
人数	14	15	16	16	15	15																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																																																																																																														
						説明	説明	事務局確認事項																																																																																																																																																																																																																																														
			55	即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<p>・H29 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じた採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコメディカルにおいてアソシエイトの公募試験を開始した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26~30) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>226</td> <td>230</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>265</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,179</td> <td>1,221</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,376</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>289</td> <td>304</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,801</td> <td>1,869</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,081</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>123</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>810</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>992</td> <td>1,021</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,238</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>113</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>162</td> <td>167</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>419</td> <td>452</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>619</td> <td>652</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>651</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	法人合計							医師	226	230	241	245	260	265	歯科医師	2	5	4	5	4	4	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,376	医療技術	289	304	327	320	315	315	事務	105	109	118	119	118	121	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,081	本部							看護師	1	1	2	2	2	2	医療技術	1	1	1				事務	26	27	28	27	25	25	計	28	29	31	29	27	27	総合							医師	123	127	135	144	157	162	歯科医師	1	3	3	4	3	3	看護師	646	654	678	748	804	810	医療技術	184	196	215	211	208	208	事務	38	41	49	51	52	55	計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	1,238	こころ							医師	12	13	12	12	12	11	歯科医師		1					看護師	113	114	110	114	115	115	医療技術	24	26	26	26	26	26	事務	13	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	165	こども							医師	91	90	94	89	91	92	歯科医師	1	1	1	1	1	1	看護師	419	452	461	453	449	449	医療技術	80	81	85	83	81	81	事務	28	28	28	28	28	28	計	619	652	669	654	650	651	<p>看護師試験については、年3回の定時募集に加えて、経験者随時募集を年8回実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報(WEB、情報誌等)、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。</p> <p>コメディカルについては、必要な職種について適時、募集を実施しており、栄養士、言語聴覚士についてアソシエイトの公募試験を開始し優秀な人材の確保に努めた。</p>	<p>医師、看護師をはじめ必要な人材を確保することができており、特に看護師については確保対策を進めた結果、25年度と比較し約200名の増員を達成し、稼働病床の増加につなげることができた。</p>	<p>・総合病院の看護師数が大幅に増加しており充足が図られた。職員数は現員数をもとに取支状況や退職状況を勘案し、臨機応変に検討されている。</p> <p>・定期的な採用試験のほか随時募集等により、臨機応変に人材を確保し正規職員数は順調に増加している。</p> <p>・H29年度の看護師採用試験では189人の申込があり112人の採用を予定(H29年11月時点※2月に定期募集の予定あり)</p> <p>・看護師の適正配置及び重症病棟の増床により、収益が増加した。</p> <p>(参考:稼働病床の増加) 【総合病院】 手術室数の増加 12室→22室 重症病棟の増床 1G病棟 8床 → 12床</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																																																																																
法人合計																																																																																																																																																																																																																																																						
医師	226	230	241	245	260	265																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師	2	5	4	5	4	4																																																																																																																																																																																																																																																
看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,376																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	289	304	327	320	315	315																																																																																																																																																																																																																																																
事務	105	109	118	119	118	121																																																																																																																																																																																																																																																
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,081																																																																																																																																																																																																																																																
本部																																																																																																																																																																																																																																																						
看護師	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																			
事務	26	27	28	27	25	25																																																																																																																																																																																																																																																
計	28	29	31	29	27	27																																																																																																																																																																																																																																																
総合																																																																																																																																																																																																																																																						
医師	123	127	135	144	157	162																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師	1	3	3	4	3	3																																																																																																																																																																																																																																																
看護師	646	654	678	748	804	810																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	184	196	215	211	208	208																																																																																																																																																																																																																																																
事務	38	41	49	51	52	55																																																																																																																																																																																																																																																
計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	1,238																																																																																																																																																																																																																																																
こころ																																																																																																																																																																																																																																																						
医師	12	13	12	12	12	11																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師		1																																																																																																																																																																																																																																																				
看護師	113	114	110	114	115	115																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	24	26	26	26	26	26																																																																																																																																																																																																																																																
事務	13	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																																																																																																
計	162	167	161	165	166	165																																																																																																																																																																																																																																																
こども																																																																																																																																																																																																																																																						
医師	91	90	94	89	91	92																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																
看護師	419	452	461	453	449	449																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	80	81	85	83	81	81																																																																																																																																																																																																																																																
事務	28	28	28	28	28	28																																																																																																																																																																																																																																																
計	619	652	669	654	650	651																																																																																																																																																																																																																																																
			56	就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。	<p>・H29 合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>200</td> <td>157</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>204</td> <td>45</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(新島)</td> <td>296</td> <td>29</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(徳島)</td> <td>272</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>キャリアパス管理(東京)</td> <td>319</td> <td>32</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(浜松)</td> <td>22</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>(静岡)</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>40</td> <td>32</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>1,378</td> <td>360</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>132</td> <td>83</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>看護大学</td> <td>266</td> <td>78</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>筑波大学</td> <td>50</td> <td>16</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>120</td> <td>46</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>240</td> <td>109</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>842</td> <td>366</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>第2期中期目標期間(H26~30)</td> <td>669</td> <td>369</td> <td>144</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>業者 970</td> <td>810</td> <td>949</td> <td>1,012</td> <td>1,378</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td>業者 590</td> <td>569</td> <td>639</td> <td>764</td> <td>842</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>業者 236</td> <td>237</td> <td>254</td> <td>200</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>198</td> <td>198</td> <td>293</td> <td>286</td> <td>366</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>業者 不明</td> <td>不明</td> <td>不明</td> <td>3</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>48</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	200	157	47	ナースナビ(浜松)	204	45	0	(新島)	296	29	0	(徳島)	272	18	0	キャリアパス管理(東京)	319	32	0	マイナビ(浜松)	22	2	7	(静岡)	25	25	1	(沼津)	40	32	3	業者計	1,378	360	58	静岡県立大学	132	83	41	看護大学	266	78	22	筑波大学	50	16	10	順天堂大学	120	46	2	静岡県立看護専門学校	34	34	0	東部看護専門学校	240	109	11	養成校計	842	366	86	第2期中期目標期間(H26~30)	669	369	144	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	来場者数	業者 970	810	949	1,012	1,378	訪問者数	業者 590	569	639	764	842	受験者数	業者 236	237	254	200	360	業者	198	198	293	286	366	受験者数	業者 不明	不明	不明	3	58	業者	16	17	17	48	86	<p>企業主催の説明会については、県内・県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談し、病院機構をPRすることができた。</p> <p>また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかむことができた。</p>	<p>県内・県外会場の合同就職説明会、養成校主催説明会の参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談することで、必要な職員の確保が出来た。</p>	<p>・看護師確保に向けては、No.55の取組に加え、キャリアバン隊による養成学校訪問や就学資金の貸与など、様々な取組がされており、採用数も増加している。</p> <p>・県民だよりやラジオ、県民サービスセンター等へのパンフレット配架、ホームページでの周知といった広報手段を通して情報発信し、多方面から職員の確保に取り組んでいる。</p>																																																																																																																												
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																			
ナース専科(静岡)	200	157	47																																																																																																																																																																																																																																																			
ナースナビ(浜松)	204	45	0																																																																																																																																																																																																																																																			
(新島)	296	29	0																																																																																																																																																																																																																																																			
(徳島)	272	18	0																																																																																																																																																																																																																																																			
キャリアパス管理(東京)	319	32	0																																																																																																																																																																																																																																																			
マイナビ(浜松)	22	2	7																																																																																																																																																																																																																																																			
(静岡)	25	25	1																																																																																																																																																																																																																																																			
(沼津)	40	32	3																																																																																																																																																																																																																																																			
業者計	1,378	360	58																																																																																																																																																																																																																																																			
静岡県立大学	132	83	41																																																																																																																																																																																																																																																			
看護大学	266	78	22																																																																																																																																																																																																																																																			
筑波大学	50	16	10																																																																																																																																																																																																																																																			
順天堂大学	120	46	2																																																																																																																																																																																																																																																			
静岡県立看護専門学校	34	34	0																																																																																																																																																																																																																																																			
東部看護専門学校	240	109	11																																																																																																																																																																																																																																																			
養成校計	842	366	86																																																																																																																																																																																																																																																			
第2期中期目標期間(H26~30)	669	369	144																																																																																																																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																																																																																																																																																																																																																																																	
来場者数	業者 970	810	949	1,012	1,378																																																																																																																																																																																																																																																	
訪問者数	業者 590	569	639	764	842																																																																																																																																																																																																																																																	
受験者数	業者 236	237	254	200	360																																																																																																																																																																																																																																																	
業者	198	198	293	286	366																																																																																																																																																																																																																																																	
受験者数	業者 不明	不明	不明	3	58																																																																																																																																																																																																																																																	
業者	16	17	17	48	86																																																																																																																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																																																																						
						説明	説明	説明	説明																																																																							
			57	看護師修学資金制度の積極的 広報をし、活用推進により、 更なる看護師確保を目指す。	<p>看護師修学資金の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>105</td> <td>60</td> <td>523</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>698</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲6</td> <td>▲8</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸付計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>262</td> <td>230</td> <td>1,173</td> </tr> <tr> <td>貸出</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>62</td> <td>-</td> <td>249</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	計	決定	73	74	123	88	105	60	523	継続	52	80	99	126	163	178	698	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲8	▲48	貸付計	119	142	211	209	262	230	1,173	貸出	38	33	76	40	62	-	249	A	A	<p>一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。 効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p>	<p>一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。</p>	<p>・29年度時点で継続貸与者163名おり、翌年度の安定的な看護師確保が見込まれる。 ・なお、修学資金の貸与は5万円/月・10万円/月の2区分としていたものを、H29年度の新規貸与者からは5万円/月のみとしている。</p>																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	計																																																																									
決定	73	74	123	88	105	60	523																																																																									
継続	52	80	99	126	163	178	698																																																																									
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲8	▲48																																																																									
貸付計	119	142	211	209	262	230	1,173																																																																									
貸出	38	33	76	40	62	-	249																																																																									
			58	看護部幹部や事務部幹部による 養成校の訪問を実施する。	<p>・H29 看護師確保キャラバン隊が県外42校を訪問した。 ・第2期中期目標期間 (H26~H30) 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、 県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問 を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。 H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保 キャラバンを創設し、機構幹部 (院長代理、副院長兼看護部 長、副看護部長等) が、県外養成校を訪問した。</p> <p>看護師確保キャラバン隊の状況 (単位:校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山形県</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>新潟県</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>石川県</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>福井県</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山梨県</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>長野県</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>岐阜県</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>三重県</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>徳島県</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>0</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>沖縄県</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>63</td> <td>47</td> <td>42</td> <td>152</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	29年度	計	山形県	10	0	0	10	新潟県	0	10	0	10	石川県	11	0	8	19	福井県	0	0	1	1	山梨県	4	2	5	11	長野県	6	4	1	11	岐阜県	10	7	9	26	三重県	10	5	4	19	徳島県	0	0	7	7	佐賀県	7	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	11	沖縄県	5	8	7	20	計	63	47	42	152	A	A	<p>看護師確保キャラバン隊が県内外の看護師養成校を訪問し、 県立3病院等の特色や強み等をPRするとともに、各養成校の学生の 就職状況等について情報収集し、採用活動に活かすことができた。</p>	<p>期間を通じ、看護師確保担当 看護部長や看護師確保キャラバン 隊が看護師養成校を訪問する ことで大きな成果を上げ看護師 が充足した。</p>	<p>・院長代理を中心としたキャラバン隊を編成して県外 養成校42校を訪問するなど看護師確保の取組が積極 的に行われている。(H28訪問先養成校:47校からの 受験者4人(合格者3人)) ・受験者数は多くはないが、このような取組は長期的 には看護師の獲得につながると考えられる。</p>
区分	27年度	28年度	29年度	計																																																																												
山形県	10	0	0	10																																																																												
新潟県	0	10	0	10																																																																												
石川県	11	0	8	19																																																																												
福井県	0	0	1	1																																																																												
山梨県	4	2	5	11																																																																												
長野県	6	4	1	11																																																																												
岐阜県	10	7	9	26																																																																												
三重県	10	5	4	19																																																																												
徳島県	0	0	7	7																																																																												
佐賀県	7	0	0	7																																																																												
鹿児島県	0	11	0	11																																																																												
沖縄県	5	8	7	20																																																																												
計	63	47	42	152																																																																												
			59	看護師・その他医療従事者等の 実習・アルバイト研修等の 受入れを推進する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (H29.9末時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>7</td> <td>141</td> <td>20</td> <td>298</td> <td>151</td> <td>617</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>272</td> <td>16</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>17</td> <td>156</td> <td>102</td> <td>40</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>71</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>672</td> <td>207</td> <td>1,291</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H29 総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、 「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じ る医療現場となるよう対応した。 こころでは、昨年度に引き続き、多くの実習生を受け入れ、 精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。 こども病院では、看護師確保用DVDをリニューアルに向けて 作成中。</p>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	7	141	20	298	151	617	こころ	20	5	2	272	16	315	こども	44	17	156	102	40	359	計	71	163	178	672	207	1,291	A	A	<p>研修の受入に関しては、実 習生の要請に応じた魅力的な 研修体制を構築した。</p>	<p>研修の受入について、門戸を 広げた受入に努め、より多く の実習受入を実現するための 戦略を図っている。</p>	<p>・各病院では看護実習生の受入れを看護師確保 の一環と捉え、受入環境を整備している。 ・看護学生をアルバイト研修として受入れ看護 助手業務に従事させることで、看護師の負担軽減 にもつながっていると考えられる。 ・コメディカルの実習生受入では昨年度を大幅 に上回る見込みとなっている。(H29年9月末実 績:207人、H28年度実績:174人)</p>																																			
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																										
総合	7	141	20	298	151	617																																																																										
こころ	20	5	2	272	16	315																																																																										
こども	44	17	156	102	40	359																																																																										
計	71	163	178	672	207	1,291																																																																										

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価	
						説明	説明	事務局確認事項	
(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等 医師の卒後臨床研修や専門研修の受入れ体制の充実・強化を図り、優秀な医師の確保及び育成に努めること。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。	(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等 県立病院が核となり、特色のある研修プログラムの開発とその推進体制を強化し、研修医にとって魅力あるプログラムを提供する。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの活用や、県立こども病院のラーニングセンター整備を行い、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努めるとともに、実習生の受入れや職員の派遣等、国内外の医療機関との交流を進める。	1 医師の卒後臨床研修の充実・強化等 2 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	60	○医師 ・医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。	・H29 (総合) ・医師や研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。 ・海外での学会発表実績 15件 (H29.9末時点) ・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した  (総合) 海外研修の実績 (H29.9末時点) (単位:人) 内 容 人数 米国内分科学会 2 血管アクセス学会 1 米国胸郭外科学会 1 米国胸郭疾患学会 3 米国がん治療学会 2 小児泌尿器科学会 1 欧州呼吸器学会国際会議 2 ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会 1 ヨーロッパ肩肘学会学術大会 1 欧州腫瘍学会 1 国際コンナネンス学会 1 ヨーロッパ肩肘学会学術大会 1 臨床研修医UCLA研修 6 計 23  海外での学会発表実績 (単位:件) 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度見込 30年度見込 総合 5 27 26 32 36 36 こども 20 32 45 36 33 33 海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の向上を図った。  海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している  海外研修の主な実績 (H29.9末時点) (単位:人) 区 分 内 容 人数 総合 臨床研修医UCLA研修 6 海外学会 (米国胸郭疾患学会他) 6 こども - 0 アメリカ心エコー学会 1 アメリカ胸郭外科学会 1 小児外科国際シンポジウム 3	A 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。	A 期間を通じて、医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。	・国際学会における演題発表や専門分野にて定められたテーマに関する医療先進国状況調査等に医師を派遣しており、その成果は院内外での研修講師として共有されるなど医療水準の向上に寄与している。 ・また、海外研修の報告をホームページに掲載し、研修医の募集にあたって病院機構が魅力的な環境であることをPRしている。	
			61	メディカルスキルアップセンターの活用を促進を図る。	・H29 ・先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。 ・新たに各種の高度なシミュレーター、模擬病棟、講義室を整備した。 ・静岡県が推進する「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」に対応。  ・第2期中期期間 (H26~30) ・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。  メディカルスキルアップセンター-模擬病棟 (単位:人) 区 分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度見込 30年度見込 総合 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 循環器病センター 100 100 100 100 100 100 先端医学棟 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 その他 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 計 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000	A 先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。	A 継続的にメディカルスキルアップセンターが利用され、医師、看護師等の技術の修得、向上が行われている。H29年7月の先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。	・先端医学棟内に移転したことにより環境の充実が図られた。 ・実績件数は順調に推移している。 ・外部利用もされており、県内医療従事者のレベルアップに貢献している。 ・課題としている専任管理者の確保については解決されていないが、各診療科が開催する研修会を有期職員が補助する体制で運営している。	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価																																												
						説明	説明	説明	事務局確認事項																																											
			62	ラーニングセンターの活用の促進を図る。	<p>後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で行っている。</p>	B	医師や看護師を対象とした研修で活用している。	B	H27年度に旧手術室を改修してラーニングルームを開設し、医師、看護師の実習研修に役立った。 今後、活用を促進するために計画的な運用手順を作成する必要がある。	・現在の活用状況が把握されていない(利用実績が分かる資料なし)。使用状況を把握し、効果的に活用するための運用手順の作成等が必要である。																																										
			63	海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演派遣</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>53</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>視察・研修受入</td> <td>65</td> <td>36</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>・シドニー・ウェストメッド小児病院から医師を招聘するとともに、H29年度には当院の医師2名をウェストメッド小児病院に派遣している。 ・H29年10月に浙江大学医学院附属兒童医院から研修医を受け入れ、11月には兒童医院へ訪問し友好協力協定を締結することとした。</p>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	視察・講演派遣	16	9	13	53	50	50	視察・研修受入	65	36	39	44	45	45	A	先端医学棟の開棟に伴い、海外からの視察等の受け入れ体制を強化し、中国を始めとした海外との国際交流を積極的に実施し、国際交流の推進を図った。	A	浙江省からの研修生を受け入れ、継続的に交流した。 先端医学棟開業や、浙江省友好提携周年事業などの行事により積極的な交流を行った。	・研修生の受け入れ及び派遣を継続して行われており、交流の推進が図られている。 ※先端医学棟整備後の取り組みとしては、平成29年12月に、先端医学棟の見学を希望する上海交通大学附属第6人民医院の訪問団を受け入れた。双方の病院紹介や意見交換を行った。また、成30年1月には浙江省衛生監督署の訪問を受け入れた。																					
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																														
視察・講演派遣	16	9	13	53	50	50																																														
視察・研修受入	65	36	39	44	45	45																																														
			64	・看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	<p>主な医療職種別の資格取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>3</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性腎臓病看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>14</td> <td>緊急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、臨床中心ICUケア、精神看護</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>19</td> <td>指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務管理指導、認定C.R.C.、妊婦・産科薬師認定、栄養サポートチーム専門 抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん看護、糖尿病療養指導、薬物療法指導</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>7</td> <td>専門理学療法士(運動療、呼吸器、内臓障害)、日本リハビリテーション管理士</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>17</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、検査撮影</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> <td>臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>1</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>12</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名</td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性腎臓病看護	認定看護師	14	緊急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、臨床中心ICUケア、精神看護	薬剤師	19	指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務管理指導、認定C.R.C.、妊婦・産科薬師認定、栄養サポートチーム専門 抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん看護、糖尿病療養指導、薬物療法指導	理学療法士	7	専門理学療法士(運動療、呼吸器、内臓障害)、日本リハビリテーション管理士	放射線技師	17	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、検査撮影	その他	2	臨床検査技師	計	82		区分	人数	専門・認定領域	認定看護師	7	精神科	認定看護師	1	感染管理	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	小児看護	認定看護師	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織を横断的に活動することができた。また、認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図った。	A	総合病院では、期間を通じて、感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を配置し、組織を横断的に活動することができた。 こころの医療センターでは、H29年度に感染管理認定看護師1名を増員し、看護師の資質向上に努めた。 こども病院では、H29年度には小児救急看護の認定看護師を1名増員した。	・実績はH29.9月末時点の有資格者数で、全年度末から理学療法士で2名増加している。 ・資格取得に当たり、研修受講時の職務専念義務免除や研修費用の無利子貸付制度を実施し、資格取得への支援が図られている。
職種	人数	専門・認定領域																																																		
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性腎臓病看護																																																		
認定看護師	14	緊急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、臨床中心ICUケア、精神看護																																																		
薬剤師	19	指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務管理指導、認定C.R.C.、妊婦・産科薬師認定、栄養サポートチーム専門 抗菌科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん看護、糖尿病療養指導、薬物療法指導																																																		
理学療法士	7	専門理学療法士(運動療、呼吸器、内臓障害)、日本リハビリテーション管理士																																																		
放射線技師	17	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、検査撮影																																																		
その他	2	臨床検査技師																																																		
計	82																																																			
区分	人数	専門・認定領域																																																		
認定看護師	7	精神科																																																		
認定看護師	1	感染管理																																																		
区分	人数	専門・認定領域																																																		
専門看護師	1	小児看護																																																		
認定看護師	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名																																																		

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
						説明	説明	事務局確認事項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
					<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (H29.9末時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>7</td> <td>141</td> <td>20</td> <td>298</td> <td>151</td> <td>617</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>272</td> <td>16</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>17</td> <td>156</td> <td>102</td> <td>40</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>71</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>672</td> <td>207</td> <td>1,291</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	7	141	20	298	151	617	こころ	20	5	2	272	16	315	こども	44	17	156	102	40	359	計	71	163	178	672	207	1,291	<p>先端医学棟2階に教育研修部を設置し、メディカルスキルアップセンターを整備した。臨床現場に即した、より実践的な研修やトレーニングが可能となり医師をはじめとする医療スタッフ、学生の実習、研修等の受け入れ体制を強化した。</p>	<p>先端医学棟2階に教育研修部を設置し、メディカルスキルアップセンターを整備した。臨床現場に即した、より実践的な研修が提供できた。</p>	<p>・医学生や看護学生を対象に、診療や看護の現場での見学会や実習を行っている。 (研修内容) ・基本手技は、採血・静注シミュレーター、模擬患者シミュレーター等を利用して研修を実施した。 ・蘇生訓練は、蘇生訓練用シミュレーター、ALSシミュレーター等を利用して研修を実施した。 加えて、一次、二次救命救急処置の研修コースやインストラクター養成コースの研修を実施している。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
総合	7	141	20	298	151	617																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
こころ	20	5	2	272	16	315																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
こども	44	17	156	102	40	359																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
計	71	163	178	672	207	1,291																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
					<p>職員研修参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>147</td> <td>144</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新規夜勤職員研修</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新規家族看護研修</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新任看護長・新任医務室長研修</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>40</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>フォシリテーション講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>実施予定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	新規採用職員研修	147	144	145	136	126		新規夜勤職員研修	24	26	15	10	4		新規家族看護研修	14	11	28	25	19		新任看護長・新任医務室長研修	6	17	21	21	28		コミュニケーション講座	17	23	21	20	24		プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-		フォシリテーション講座	-	-	-	23	20		コーチング講座	32	32	28	32	18		メンタルサポート講座	23	20	21	25	実施予定		<p>階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。</p>	<p>階層別、業務に必要なスキル等を身につける専門研修について毎年研修内容の見直しを行ない、研修体制プログラムを整備した。</p>	<p>・職種に応じた研修が継続的に実施されている。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
新規採用職員研修	147	144	145	136	126																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
新規夜勤職員研修	24	26	15	10	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
新規家族看護研修	14	11	28	25	19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
新任看護長・新任医務室長研修	6	17	21	21	28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
コミュニケーション講座	17	23	21	20	24																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
フォシリテーション講座	-	-	-	23	20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
コーチング講座	32	32	28	32	18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
メンタルサポート講座	23	20	21	25	実施予定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
(2)就労環境の向上	(2)就労環境の向上	1 2 (2)	67	<p>柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。</p>	<p>・H29 ・看護師の2交代制勤務については、H29年度10月末で総合病院16病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 ・看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 ・看護師、事務、コメディカルの優秀な有期職員をアソシエイトに登録し人材確保を図った。 ・H29年度から新たに採用した医師を対象に、初任給調整手当を廃止し、その原資を活用して、期間内の手術や外来等の診療実績を評価して支給する診療賞与を導入した。 ・第2期中期目標期間(H26~30) ・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・看護師の2交代制勤務については、労働組合との合意により試行を経て制度化し、H26年度以降も実施病棟を拡大した。 ・看護師の夜勤専従については、労働組合との合意により試行を実施している。 ・H28年度から新たにアソシエイト制度を創設し、優秀な有期職員の登用を進めている。</p>	<p>看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図った。 看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となった。</p>	<p>法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、期間を通じて看護師の2交代制病棟は拡大し、夜勤専従の試行を行うことで、多様な雇用形態への取組を進めた。 アソシエイト制度の創設により、事務作業補助者を増員し、医師の勤務実績を評価する仕組みによりモチベーションの向上に繋がっている。 また、新たな給与制度(診療賞与)を設定し、実績に対応した給与体系の構築が図られている。</p>	<p>・交替勤務制、夜勤専従など多様な勤務条件・雇用形態が設定されており、離職防止やワークライフバランスの実現に寄与している。 ・優秀な人材を確保する方策のひとつとしてH28年度から「アソシエイト(昇任・昇格・退職手当のない無期雇用職員)」という職員区分を創設して有期職員から正規雇用へ登用する仕組みを設け、有期職員の勤務実績を評価する仕組みによりモチベーションの向上に繋がっている。 また、新たな給与制度(診療賞与)を設定し、実績に対応した給与体系の構築が図られている。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
					<p>アソシエイト採用実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	看護師	5	1	事務	2	2	コメディカル	-	3	計	7	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
看護師	5	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
事務	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
コメディカル	-	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
計	7	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			68	<p>医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。</p>	<p>補助職員の配置状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">25年度</th> <th colspan="5">26年度</th> <th colspan="5">27年度</th> <th colspan="5">28年度</th> <th colspan="5">29年度</th> <th rowspan="2">増減 (25-29)</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>31</td><td>50</td><td>55</td><td>66</td><td>73</td><td>72</td><td>7</td> <td>31</td><td>50</td><td>55</td><td>66</td><td>73</td><td>72</td><td>7</td> <td>31</td><td>50</td><td>55</td><td>66</td><td>73</td><td>72</td><td>7</td> <td>31</td><td>50</td><td>55</td><td>66</td><td>73</td><td>72</td><td>7</td> <td>31</td><td>50</td><td>55</td><td>66</td><td>73</td><td>72</td><td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>71</td><td>88</td><td>81</td><td>80</td><td>74</td><td>75</td><td>▲6</td> <td>71</td><td>88</td><td>81</td><td>80</td><td>74</td><td>75</td><td>▲6</td> <td>71</td><td>88</td><td>81</td><td>80</td><td>74</td><td>75</td><td>▲6</td> <td>71</td><td>88</td><td>81</td><td>80</td><td>74</td><td>75</td><td>▲6</td> <td>▲6</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>16</td><td>18</td><td>17</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>16</td><td>18</td><td>17</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>16</td><td>18</td><td>17</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>16</td><td>18</td><td>17</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>118</td><td>156</td><td>153</td><td>164</td><td>165</td><td>166</td><td>-1</td> <td>118</td><td>156</td><td>153</td><td>164</td><td>165</td><td>166</td><td>-1</td> <td>118</td><td>156</td><td>153</td><td>164</td><td>165</td><td>166</td><td>-1</td> <td>118</td><td>156</td><td>153</td><td>164</td><td>165</td><td>166</td><td>-1</td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こころ</td> <td>医師事務補助</td> <td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>9</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>1</td> <td>9</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>1</td> <td>9</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>1</td> <td>9</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>1</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>-1</td> <td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>-1</td> <td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>-1</td> <td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>-1</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>医師事務補助</td> <td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>18</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>20</td><td>19</td><td>21</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>▲1</td> <td>20</td><td>19</td><td>21</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>▲1</td> <td>20</td><td>19</td><td>21</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>▲1</td> <td>20</td><td>19</td><td>21</td><td>22</td><td>21</td><td>21</td><td>▲1</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>0</td> <td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>0</td> <td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>0</td> <td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>42</td><td>41</td><td>44</td><td>45</td><td>44</td><td>44</td><td>▲1</td> <td>42</td><td>41</td><td>44</td><td>45</td><td>44</td><td>44</td><td>▲1</td> <td>42</td><td>41</td><td>44</td><td>45</td><td>44</td><td>44</td><td>▲1</td> <td>42</td><td>41</td><td>44</td><td>45</td><td>44</td><td>44</td><td>▲1</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">計</td> <td>医師事務補助</td> <td>50</td><td>69</td><td>75</td><td>86</td><td>93</td><td>93</td><td>▲7</td> <td>50</td><td>69</td><td>75</td><td>86</td><td>93</td><td>93</td><td>▲7</td> <td>50</td><td>69</td><td>75</td><td>86</td><td>93</td><td>93</td><td>▲7</td> <td>50</td><td>69</td><td>75</td><td>86</td><td>93</td><td>93</td><td>▲7</td> <td>▲7</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>100</td><td>117</td><td>116</td><td>110</td><td>104</td><td>105</td><td>▲6</td> <td>100</td><td>117</td><td>116</td><td>110</td><td>104</td><td>105</td><td>▲6</td> <td>100</td><td>117</td><td>116</td><td>110</td><td>104</td><td>105</td><td>▲6</td> <td>100</td><td>117</td><td>116</td><td>110</td><td>104</td><td>105</td><td>▲6</td> <td>▲6</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>22</td><td>24</td><td>24</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>0</td> <td>22</td><td>24</td><td>24</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>0</td> <td>22</td><td>24</td><td>24</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>0</td> <td>22</td><td>24</td><td>24</td><td>25</td><td>25</td><td>25</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>172</td><td>210</td><td>209</td><td>221</td><td>222</td><td>223</td><td>-1</td> <td>172</td><td>210</td><td>209</td><td>221</td><td>222</td><td>223</td><td>-1</td> <td>172</td><td>210</td><td>209</td><td>221</td><td>222</td><td>223</td><td>-1</td> <td>172</td><td>210</td><td>209</td><td>221</td><td>222</td><td>223</td><td>-1</td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>▲14</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度					26年度					27年度					28年度					29年度					増減 (25-29)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	総合	医師事務補助	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	0	看護助手	71	88	81	80	74	75	▲6	71	88	81	80	74	75	▲6	71	88	81	80	74	75	▲6	71	88	81	80	74	75	▲6	▲6	コメディカル助手	16	18	17	18	18	18	0	16	18	17	18	18	18	0	16	18	17	18	18	18	0	16	18	17	18	18	18	0	0	小計	118	156	153	164	165	166	-1	118	156	153	164	165	166	-1	118	156	153	164	165	166	-1	118	156	153	164	165	166	-1	-1	増減																														こころ	医師事務補助	1	1	2	2	2	2	0	1	1	2	2	2	2	0	1	1	2	2	2	2	0	1	1	2	2	2	2	0	0	看護助手	9	10	8	8	9	9	1	9	10	8	8	9	9	1	9	10	8	8	9	9	1	9	10	8	8	9	9	1	▲1	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0	0	小計	12	13	12	12	13	13	-1	12	13	12	12	13	13	-1	12	13	12	12	13	13	-1	12	13	12	12	13	13	-1	▲1	増減																													▲1	こども	医師事務補助	18	18	18	18	18	18	0	18	18	18	18	18	18	0	18	18	18	18	18	18	0	18	18	18	18	18	18	0	0	看護助手	20	19	21	22	21	21	▲1	20	19	21	22	21	21	▲1	20	19	21	22	21	21	▲1	20	19	21	22	21	21	▲1	▲1	コメディカル助手	4	4	5	5	5	5	0	4	4	5	5	5	5	0	4	4	5	5	5	5	0	4	4	5	5	5	5	0	0	小計	42	41	44	45	44	44	▲1	42	41	44	45	44	44	▲1	42	41	44	45	44	44	▲1	42	41	44	45	44	44	▲1	▲1	増減																													▲1	計	医師事務補助	50	69	75	86	93	93	▲7	50	69	75	86	93	93	▲7	50	69	75	86	93	93	▲7	50	69	75	86	93	93	▲7	▲7	看護助手	100	117	116	110	104	105	▲6	100	117	116	110	104	105	▲6	100	117	116	110	104	105	▲6	100	117	116	110	104	105	▲6	▲6	コメディカル助手	22	24	24	25	25	25	0	22	24	24	25	25	25	0	22	24	24	25	25	25	0	22	24	24	25	25	25	0	0	小計	172	210	209	221	222	223	-1	172	210	209	221	222	223	-1	172	210	209	221	222	223	-1	172	210	209	221	222	223	-1	-1	増減																													▲14	<p>医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。</p>	<p>期間を通じて、補助職員等を配置することで、医療従事者の事務的業務の軽減が図られている。 25年度と比較して総合病院の医師事務補助者を大幅に増員し、医師の事務負担軽減することができている。</p>	<p>・補助職員を継続して配置されており、医療従事者の負担軽減が図られている。 ・診療報酬においても、医師事務作業補助体制加算により年間約142百万円の収益が見込まれている。 ・医師事務補助職員の配置により、医師及び看護師の業務が軽減されている。また、看護助手は看護師の2~3割程度の業務を担っているという調査結果となった。 ・総合病院で大幅に増員しているが、経費を勘案した適正な定員管理への配慮も必要と考えられる。</p>
区分	25年度						26年度					27年度					28年度					29年度					増減 (25-29)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
総合	医師事務補助	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	31	50	55	66	73	72	7	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	看護助手	71	88	81	80	74	75	▲6	71	88	81	80	74	75	▲6	71	88	81	80	74	75	▲6	71	88	81	80	74	75	▲6	▲6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	コメディカル助手	16	18	17	18	18	18	0	16	18	17	18	18	18	0	16	18	17	18	18	18	0	16	18	17	18	18	18	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	小計	118	156	153	164	165	166	-1	118	156	153	164	165	166	-1	118	156	153	164	165	166	-1	118	156	153	164	165	166	-1	-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	増減																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
こころ	医師事務補助	1	1	2	2	2	2	0	1	1	2	2	2	2	0	1	1	2	2	2	2	0	1	1	2	2	2	2	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護助手	9	10	8	8	9	9	1	9	10	8	8	9	9	1	9	10	8	8	9	9	1	9	10	8	8	9	9	1	▲1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	2	2	2	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	小計	12	13	12	12	13	13	-1	12	13	12	12	13	13	-1	12	13	12	12	13	13	-1	12	13	12	12	13	13	-1	▲1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	増減																													▲1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	医師事務補助	18	18	18	18	18	18	0	18	18	18	18	18	18	0	18	18	18	18	18	18	0	18	18	18	18	18	18	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護助手	20	19	21	22	21	21	▲1	20	19	21	22	21	21	▲1	20	19	21	22	21	21	▲1	20	19	21	22	21	21	▲1	▲1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	コメディカル助手	4	4	5	5	5	5	0	4	4	5	5	5	5	0	4	4	5	5	5	5	0	4	4	5	5	5	5	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	小計	42	41	44	45	44	44	▲1	42	41	44	45	44	44	▲1	42	41	44	45	44	44	▲1	42	41	44	45	44	44	▲1	▲1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	増減																													▲1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
計	医師事務補助	50	69	75	86	93	93	▲7	50	69	75	86	93	93	▲7	50	69	75	86	93	93	▲7	50	69	75	86	93	93	▲7	▲7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護助手	100	117	116	110	104	105	▲6	100	117	116	110	104	105	▲6	100	117	116	110	104	105	▲6	100	117	116	110	104	105	▲6	▲6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	コメディカル助手	22	24	24	25	25	25	0	22	24	24	25	25	25	0	22	24	24	25	25	25	0	22	24	24	25	25	25	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	小計	172	210	209	221	222	223	-1	172	210	209	221	222	223	-1	172	210	209	221	222	223	-1	172	210	209	221	222	223	-1	-1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	増減																													▲14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価																																																																															
						説明	説明	事務局確認事項																																																																															
			69	看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 勤務成績評価制度の試行を行うとともに、平成30年4月から県に準拠した人事評価制度を導入することを職員組合と合意した。</li> <li>・第2期中期目標期間(H26～30) H26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。</li> <li>・試行対象職員 看護師監督者層(看護部長、副看護部長、看護師長、副看護部長)、管理者層に拡大し、試行した。</li> <li>・H28年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、副主任以上とし、試行した。</li> <li>・H30年4月から県に準拠した人事評価制度を実施予定。</li> </ul>	<p>勤務評価制度の試行については、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上への寄与が図られたものと考えている。</p> <p>県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意した。</p>	<p>H26年度の看護師監督者層の試行後、対象者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて試行を再開した。</p> <p>また、コメディカル、事務職員へと順調に対象を拡大して試行している。</p> <p>H28年度においては、副主任以上へ制度を拡大して試行したが、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上への寄与が図られたものと考えている。</p> <p>県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務評価制度では看護師・コメディカル・プロパー事務職員を対象に1次・2次評価者を定め公平性・客観性を確保して実施している。</li> <li>・フィードバック面談を通して指導・助言を行うことで人材育成につながることに昇任人事への参考としており職員のモチベーション向上につなげている。</li> <li>・なお、H30年度から、改正地方公務員法により義務化された新たな人事評価制度を導入し、昇任・昇給にも活用していくことを検討している。</li> <li>※「職員のモチベーション向上」が確認できる具体例はないが、聞き取りによれば勤務成績評価制度は、多くの職員にとって、業務の振り返りや強み・弱みの把握の契機となり、一定のモチベーション向上に寄与したとみられる。</li> </ul>																																																																															
			70	就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舎新規建設の準備を進めた。また、院内保育所は運営協議会にて、事務局、委託先、利用者間で意見交換を行った。こども病院院内保育所は、院内保育所建替えに向け基本設計を終了し、静岡市の開発許可を得た。</li> <li>・第2期中期目標期間(H26～30) 総合病院では宿舎の大規模修繕(H26.27)、新看護師宿舎の建設(H27)を行い、院内保育所では、土曜日の保育時間延長や、入所者へのインフルエンザ予防接種を行った。また、医師の就労環境の改善のため、医師クラブをH30年度に整備予定である。</li> <li>こども病院では、研修医宿舎(F棟)の改修(H28)を行い、院内保育所の建替えは、H29年度下半期に建設を着手し、H30年度上半期に竣工予定である。</li> </ul>	<p>総合病院の医師宿舎新規建設、こども病院院内保育所建替えに向けての準備を進め、院内施設の充実を図ることが出来る。</p> <p>引き続き、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>	<p>宿舎の修繕や新宿舎の建設、保育所の運用の見直しなどを行い、職員の就労環境の向上に寄与することが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・看護師宿舎や院内保育所の整備など就労環境の整備が図られている。</li> <li>・医師・看護師宿舎は平均入居率75%、院内保育所の利用者は定員に対し総合病院で91%、こども病院では63%と希望者に対し充足している。</li> </ul>																																																																															
			71	院内保育所建替え工事を実施し運営方針を策定する。	<p>こども 運営方針を決定し、H28年度に市と敷地(市街化調整区域)に関する協議を進め、H29年度中の設計、建築を予定している。</p>	<p>運営方針を決定し、計画を着実に進めている。</p>	<p>運営方針、建築内容について調整・決定され、H30年度に完成予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院の院内保育所建替えでは、対象年齢の引上げ・二重保育の実施に加えて定員数の増員(30名⇒80名)などの拡充を計画している。</li> <li>・当初計画に対しての進捗状況に遅れが見られるものの、保育所建替えにより就労環境の向上が期待できる。</li> </ul>																																																																															
(3) 知識や技術の普及	(3) 知識や技術の普及	<p>1 知識や技術の普及</p> <p>2 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり</p> <p>②認定看護師等の資格保有者の活用</p> <p>(3) ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放</p>	<p>1 県内の医療従事者の質の向上を図るため、県立病院が培った知識や技術を積極的に普及させること。また、医療従事者の養成に協力すること。</p> <p>2 医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制を維持するとともに、院内研修等教育研修機能を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。</li> <li>・医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</li> </ul> <table border="1"> <caption>(総合) 海外研修の実績(H29.9末時点) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>米国内分秘学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>血管アテロシス学会</td><td>11</td></tr> <tr><td>米国胸外科科学会</td><td>11</td></tr> <tr><td>米国胸病学会</td><td>11</td></tr> <tr><td>米国がん治療学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>小児脳神経科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国がん治療学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>小児脳神経科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>11</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ腎臓学会学術大会</td><td>11</td></tr> <tr><td>欧州糖尿病学会</td><td>11</td></tr> <tr><td>国際コンチネンツ学会</td><td>11</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ放射線学会学術大会</td><td>11</td></tr> <tr><td>臨床研修医(C.L.A)研修</td><td>63</td></tr> <tr><td>計</td><td>21</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>学会発表実績(国内外) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表数</td> <td>412</td> <td>460</td> <td>472</td> <td>578</td> <td>580</td> <td>600</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	米国内分秘学会	2	血管アテロシス学会	11	米国胸外科科学会	11	米国胸病学会	11	米国がん治療学会	3	小児脳神経科学会	1	米国がん治療学会	3	小児脳神経科学会	1	欧州呼吸器学会国際会議	2	ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	11	ヨーロッパ腎臓学会学術大会	11	欧州糖尿病学会	11	国際コンチネンツ学会	11	ヨーロッパ放射線学会学術大会	11	臨床研修医(C.L.A)研修	63	計	21	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	発表数	412	460	472	578	580	600	<p>医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加し、研究発表を行った。</p>	<p>医師や研修医をはじめとする医療スタッフが国内外の学会や研修会等への参加しやすい体制を維持した。</p>	<p>①「研究研修費」「研究雑費」「研究旅費」の予算、実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>研究研修費</th> <th>研究雑費</th> <th>研究旅費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">総合</td> <td>H28予算</td> <td>256,635</td> <td>87,656</td> <td>84,061</td> </tr> <tr> <td>H28実績</td> <td>155,019</td> <td>33,844</td> <td>64,435</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>H28予算</td> <td>15,682</td> <td>1,855</td> <td>8,740</td> </tr> <tr> <td>H28実績</td> <td>10,857</td> <td>1,102</td> <td>6,323</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>H28予算</td> <td>90,042</td> <td>12,400</td> <td>42,330</td> </tr> <tr> <td>H28実績</td> <td>74,937</td> <td>11,033</td> <td>39,341</td> </tr> </tbody> </table> <p>※研修会等に参加したものを業務に活かすこと組織に還元するため・・・(総合)看護師に周知が必要な場合(看護必要度、重症度等)は、研修会・学会等に参加した看護師が講師となり、院内研修会を実施している。(こころ)精神保健指定研修会に参加し、患者本人の意思によらない入院や行動制限の判定を行うといった医療機関の臨床現場における精神保健指定医としての職務に活かした。(こども)院内や院外のセミナー、講演会などで講師として研修成果の伝達を行っている。</p> <p>※No.81にて講演会等の回数を記載。(こども)</p>	病院	項目	研究研修費	研究雑費	研究旅費	総合	H28予算	256,635	87,656	84,061	H28実績	155,019	33,844	64,435	こころ	H28予算	15,682	1,855	8,740	H28実績	10,857	1,102	6,323	こども	H28予算	90,042	12,400	42,330	H28実績	74,937	11,033	39,341
内 容	人数																																																																																						
米国内分秘学会	2																																																																																						
血管アテロシス学会	11																																																																																						
米国胸外科科学会	11																																																																																						
米国胸病学会	11																																																																																						
米国がん治療学会	3																																																																																						
小児脳神経科学会	1																																																																																						
米国がん治療学会	3																																																																																						
小児脳神経科学会	1																																																																																						
欧州呼吸器学会国際会議	2																																																																																						
ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	11																																																																																						
ヨーロッパ腎臓学会学術大会	11																																																																																						
欧州糖尿病学会	11																																																																																						
国際コンチネンツ学会	11																																																																																						
ヨーロッパ放射線学会学術大会	11																																																																																						
臨床研修医(C.L.A)研修	63																																																																																						
計	21																																																																																						
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																	
発表数	412	460	472	578	580	600																																																																																	
病院	項目	研究研修費	研究雑費	研究旅費																																																																																			
総合	H28予算	256,635	87,656	84,061																																																																																			
	H28実績	155,019	33,844	64,435																																																																																			
こころ	H28予算	15,682	1,855	8,740																																																																																			
	H28実績	10,857	1,102	6,323																																																																																			
こども	H28予算	90,042	12,400	42,330																																																																																			
	H28実績	74,937	11,033	39,341																																																																																			
			72	研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>研究雑費や研究旅費等の予算化等により、国内外</p>			<p>研究雑費や研究旅費等の予算化等により、国内外</p>																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																																																																																																																																																		
						説明	説明																																																																																																																																																					
					<p>学会発表実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>22</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>10</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> </table> <p>研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研究会等に参加した。</p> <p>学会発表実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>事業件数</td> <td>451</td> <td>466</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>470</td> <td>470</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	学会発表件数	22	31	31	10	20	20	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	事業件数	451	466	468	496	470	470	A	A	<p>学会や研究会等へ積極的に参加し、研究発表を行った。</p> <p>各職員が学会や研究会等に参加して知識や技術を習得することで、病院全体のレベルアップに寄与した。</p>	<p>学会や研究会等へ参加しやすい体制が維持されており、期間を通して継続的に実施されている。</p>																																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																						
学会発表件数	22	31	31	10	20	20																																																																																																																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																						
事業件数	451	466	468	496	470	470																																																																																																																																																						
			73	院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	<p>・H29 看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。 ・第2期中期目標期間 (H26~30)</p> <p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>29</td> <td>37</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>54</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合							看護師	10	10	7	27	20	20	コメディカル	4	13	4	11	0	0	事務	0	1	0	0	0	0	計	14	24	11	38	20	20	こころ							看護師	0	0	0	0	0	0	コメディカル	1	0	0	0	0	0	事務	0	0	1	0	0	0	計	1	0	1	0	0	0	子ども							看護師	19	27	9	30	25	25	コメディカル	1	3	0	0	0	0	事務	0	0	0	0	0	0	計	20	30	9	30	25	25	本部							看護師	29	37	16	57	45	45	コメディカル	6	16	4	11	0	0	事務	2	1	1	0	0	0	計	37	54	21	68	45	45	A	A	<p>資格等取得助成制度は、H24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格取得者は増加している。</p> <p>看護師、コメディカル、事務職員のレベルアップを促し、機構全体の医療の質の向上に貢献している。</p>	<p>・毎年度、一定数の利用者があり、職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられる。 ・資格取得者の活用については、例えば、緩和ケアやがん看護の認定看護師については、がん相談センターに配置するなど、病院全体の状況を見ながら、必要に応じ、資格取得者等を活用した人事配置が行われている。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																						
総合																																																																																																																																																												
看護師	10	10	7	27	20	20																																																																																																																																																						
コメディカル	4	13	4	11	0	0																																																																																																																																																						
事務	0	1	0	0	0	0																																																																																																																																																						
計	14	24	11	38	20	20																																																																																																																																																						
こころ																																																																																																																																																												
看護師	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																						
コメディカル	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																						
事務	0	0	1	0	0	0																																																																																																																																																						
計	1	0	1	0	0	0																																																																																																																																																						
子ども																																																																																																																																																												
看護師	19	27	9	30	25	25																																																																																																																																																						
コメディカル	1	3	0	0	0	0																																																																																																																																																						
事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																						
計	20	30	9	30	25	25																																																																																																																																																						
本部																																																																																																																																																												
看護師	29	37	16	57	45	45																																																																																																																																																						
コメディカル	6	16	4	11	0	0																																																																																																																																																						
事務	2	1	1	0	0	0																																																																																																																																																						
計	37	54	21	68	45	45																																																																																																																																																						
			74	地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	<p>実習研修受入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>304</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>434</td> <td>444</td> <td>376</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	受入数	304	309	391	434	444	376	A	A	<p>看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対し、実習研修を行った。</p>	<p>・研修プログラムは実習の依頼元からの求めに応じて個別対応している。 ・受入れ実績件数は順調に推移しており地域医療への貢献が継続して図られている。</p>																																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																						
受入数	304	309	391	434	444	376																																																																																																																																																						
			75	講演会やセミナーなどを開催する。	<p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>開催件数</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> </table> <p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>開催件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催件数	20	26	13	29	21	21	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催件数	17	19	23	15	19	19	A	A	<p>講演会、症例検討会を定期的に開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。</p> <p>オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応した。</p>	<p>主に医療関係者向けの開催件数は年20回前後で毎年度安定的に推移しており、医療関係者の知識向上や技術の普及に貢献している。</p> <p>・院内外の医療関係者を対象とした定期的な講演会や、地域の医療従事者への継続的な実習研修を行い、知識や技術の普及に努めている。</p> <p>さまざまな分野の講演会を定期的に実施し、また、多くの医療従事者が受講できるよう工夫 (ビデオ研修など) をし、医療従事者の資質向上に寄与した。</p>																																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																						
開催件数	20	26	13	29	21	21																																																																																																																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																						
開催件数	17	19	23	15	19	19																																																																																																																																																						

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価		事務局確認事項																																																																																																																																																																																	
						説明	説明	説明	説明																																																																																																																																																																																		
第2 3 医療に関する調査及び研究 医療に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上を図ること。	第2 3 医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の整備・充実強化に努める。	1 3 医療に関する調査及び研究 県内の医療水準の向上に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																	
(1)研究機能の強化 臨床研究機能の強化に取り組むこと。また、富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)プロジェクトなど、治験や産学官との連携による研究開発に取り組むこと。	(1)研究機能の強化 生活習慣病や遺伝子診療、脳科学等の臨床研究を行うことのできる環境の整備及び研究支援体制の充実を図る。また、治験や調査研究事業に積極的に参画できるように引き続き体制を整備する。さらに、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	研究機能の強化 ①リサーチサポートセンターの設置による臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究	76	・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ・研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ・県立大学との共同研究を行う。	<p>・H29 先端医学棟5階に「リサーチサポートセンター」を設置。遺伝子解析、統計解析、検体の収集・保存・解析、県民の疾病分析などを行う体制を整備した。</p> <p>・「リサーチサポートセンター」内に「きこえとことばのセンター」(静岡県乳幼児難聴支援センター)を設置。新生児聴覚スクリーニングのデータ収集や難聴児の言語発達の研究などを行う体制を整備した。</p> <p>・県立大学薬学部の一つ研究室を循環器病センター6階から先端医学棟5階に移転し、共同研究の体制を強化した。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30) ・総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬理学教室、臨床薬効解析学教室、医薬品情報解析学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。</p> <p>・北館6階に、臨床医学研究センターを設置。</p> <p>・H27年度から外部客員研究員の受入を開始し、臨床研究のサポートを実施。</p>	<p>研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。</p> <p>H29年度は外部から客員研究員を新たに3名の受入を行った。「リサーチサポートセンター」と「きこえとことばのセンター」の人材と設備を整備し、研究機能の強化を行った。</p>	<p>H27年度から外部の客員研究員の受入を開始し、順調に人数を増やし、研究体制の強化に伴い研究内容の分野もひろがっている。</p>	<p>・リサーチサポートセンターの整備とそれに伴う客員研究員の受け入れにより、研究体制の強化が図られている。</p> <p>・臨床研究件数も増加傾向にあり、着実に実施されている。</p> <p>※リサーチサポートセンターの体制整備について、体制整備とは具体的に客員研究員の受け入れ、医療機器の実働⇒No.72にも(別添、英文9報、邦文4報、2006-2017期間中)</p> <p>・医薬が連携した研究体制の整備により県民の健康に関する臨床研究や疫学研究への取組が期待される。</p>																																																																																																																																																																																			
		<table border="1"> <caption>臨床研究数 (単位:件、%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>195</td> <td>213</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>270</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>30</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>18.5</td> <td>24.9</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>18.5</td> <td>18.5</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>客員研究員受入状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>奨学寄附金受入件数・金額</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">25年度</td> <td>アストラゼネカ</td> <td>糖尿病疾患、癌における研究推進のため</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共製薬</td> <td>腎臓病領域(腎臓)における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>ロシュ・アブタテック</td> <td>心臓血管の予防と早期発見に関する研究</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>大日本住友製薬</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>オオベレ薬品</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>5,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">26年度</td> <td>昭和製薬</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>1,900</td> </tr> <tr> <td>昭和製薬</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業</td> <td>糖尿病、内臓肥満症の治療に関する研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共製薬</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>アストラゼネカ</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>4,600</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">27年度</td> <td>大正富山医薬品</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>昭和製薬</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第一三共株式会社</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株式会社</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">28年度</td> <td>昭和製薬</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>糖尿病、内臓肥満症の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>糖尿病の及ぼす影響に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>29.9末</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定	研究数	195	213	233	266	270	270	支援研究数	30	53	46	46	50	50	支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	18.5	18.5	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定	静岡県立大学	8	7	14	14	14	14	外部	-	-	4	7	9	11	区分	寄附者	目的	金額(千円)	25年度	アストラゼネカ	糖尿病疾患、癌における研究推進のため	1,000	第一三共製薬	腎臓病領域(腎臓)における研究	500	ロシュ・アブタテック	心臓血管の予防と早期発見に関する研究	3,000	田辺三菱製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500	大日本住友製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	300	オオベレ薬品	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500	合計		5,800	26年度	昭和製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900	昭和製薬	透析患者の管理についての研究	200	小野薬品工業	糖尿病、内臓肥満症の治療に関する研究	1,000	第一三共製薬	循環器領域における研究	500	アストラゼネカ	呼吸器疾患における研究	1,000	合計		4,600	27年度	大正富山医薬品	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	昭和製薬	透析患者の管理についての研究	200	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	200	合計		1,400	28年度	昭和製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病、内臓肥満症の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病の及ぼす影響に関する研究	500	合計		1,500	29.9末						0	77	・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	<p>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位:千円、件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>件数 29</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>71,394</td> <td>86,805</td> <td>90,549</td> <td>78,259</td> <td>78,341</td> <td>78,341</td> </tr> <tr> <td>ここで</td> <td>件数 2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>537</td> <td>185</td> <td>1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>件数 14</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>8,539</td> <td>7,610</td> <td>10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>13,867</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定	総合	件数 29	29	29	30	30	30	契約額	71,394	86,805	90,549	78,259	78,341	78,341	ここで	件数 2	1	5	0	0	2	契約額	537	185	1,139	0	0	350	こども	件数 14	22	29	26	15	42	契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867	<p>・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。</p> <p>・治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。</p> <p>・市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。</p>	<p>・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。</p> <p>・治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。</p> <p>・市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。</p>	<p>・治験後市販に至ったものはH29.12時点で5件あり、新薬の承認に貢献している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定																																																																																																																																																																																					
研究数	195	213	233	266	270	270																																																																																																																																																																																					
支援研究数	30	53	46	46	50	50																																																																																																																																																																																					
支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	18.5	18.5																																																																																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定																																																																																																																																																																																					
静岡県立大学	8	7	14	14	14	14																																																																																																																																																																																					
外部	-	-	4	7	9	11																																																																																																																																																																																					
区分	寄附者	目的	金額(千円)																																																																																																																																																																																								
25年度	アストラゼネカ	糖尿病疾患、癌における研究推進のため	1,000																																																																																																																																																																																								
	第一三共製薬	腎臓病領域(腎臓)における研究	500																																																																																																																																																																																								
	ロシュ・アブタテック	心臓血管の予防と早期発見に関する研究	3,000																																																																																																																																																																																								
	田辺三菱製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500																																																																																																																																																																																								
	大日本住友製薬	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	300																																																																																																																																																																																								
	オオベレ薬品	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500																																																																																																																																																																																								
	合計		5,800																																																																																																																																																																																								
	26年度	昭和製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900																																																																																																																																																																																							
		昭和製薬	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																																																																							
		小野薬品工業	糖尿病、内臓肥満症の治療に関する研究	1,000																																																																																																																																																																																							
第一三共製薬		循環器領域における研究	500																																																																																																																																																																																								
アストラゼネカ		呼吸器疾患における研究	1,000																																																																																																																																																																																								
合計		4,600																																																																																																																																																																																									
27年度	大正富山医薬品	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																								
	昭和製薬	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																																																																								
	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500																																																																																																																																																																																								
	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	200																																																																																																																																																																																								
	合計		1,400																																																																																																																																																																																								
28年度	昭和製薬	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																								
	小野薬品工業株式会社	糖尿病、内臓肥満症の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																								
	小野薬品工業株式会社	糖尿病の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																																																																								
	合計		1,500																																																																																																																																																																																								
29.9末						0																																																																																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定																																																																																																																																																																																					
総合	件数 29	29	29	30	30	30																																																																																																																																																																																					
契約額	71,394	86,805	90,549	78,259	78,341	78,341																																																																																																																																																																																					
ここで	件数 2	1	5	0	0	2																																																																																																																																																																																					
契約額	537	185	1,139	0	0	350																																																																																																																																																																																					
こども	件数 14	22	29	26	15	42																																																																																																																																																																																					
契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867																																																																																																																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29-中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																					
						説明	説明	事務局確認事項																					
(2)診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2)診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図るなど、エビデンスを集積し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	1 3 (2)	78	DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29</li> <li>・ 9月末までにDPC部会兼コード検討委員会を2回開催し、年度内に合計で4回開催する予定。</li> <li>・ 第2期中期目標期間（H26~30）</li> <li>・ D P C分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6%（H27年度）から92.3%（H28年度）に上昇した。</li> <li>・ アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。</li> </ul> <table border="1"> <caption>D P C部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>44</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催回数	2	2	2	4	4	4	出席者数	22	26	17	32	44	48	<p>・9月末までにDPC部会兼コード検討委員会を2回開催し、年度内に合計で4回開催する予定。病名のICD10-2013年度版への切り替えなど、適切なコーディングとなるよう検討を行なっている。</p>	<p>H28年度よりDPCの診療情報をホームページで公開している。 H28年度よりDPC部会兼コード検討委員会の開催回数を年4回とし、DPCの精度向上に貢献している。 今後も、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DPC分析結果は、在院日数の最適化、看護必要度の精度向上、医薬品処方改善(退院時処方、入院時持参薬)、DPC機能評価係数の向上(後発医薬品使用率、診療密度等)に活用するため、疾患別や診療科別に必要な情報を集計し検討・報告が行われている。</li> <li>・職員のスキルアップについては、DPC分析ソフト使用方法や活用事例に関するセミナーへの参加、院内でのDPC分析勉強会を実施している。</li> <li>※「DPC部会兼コード検討委員会」</li> <li>診療情報管理室を中心にDPC監査やDPCコーディングの検討を行なっている。</li> <li>■DPC監査</li> <li>・DPC主傷病名と退院サマリ病名の不一致調査、留意病名(部位不明・詳細発生率)の発生率調査;発生率が20%以上になるとDPCが0.05減点となる</li> <li>■コーディング検討</li> <li>・DPC/出来高比のプラス症例、マイナス症例のトップ10を部会で検討</li> </ul>
					区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																		
					開催回数	2	2	2	4	4	4																		
出席者数	22	26	17	32	44	48																							
79	D P Cの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかわるスキルアップに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D P Cデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、D P C部会兼コード検討委員会を開催した。</li> </ul> <table border="1"> <caption>D P C部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催回数	2	2	4	4	4	4	出席者数	37	19	23	54	56	56	<p>部会兼委員会の委員を各部門の職員から構成し、必要な情報を各診療へフィードバックすることにより、診療情報の管理体制を整えた。</p>	<p>診療情報管理について、担当職員の資質向上とともに医療現場への介入により診療情報の担保を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他病院と比較したコーディング（入院患者の診断群分類の決定）の検証やDPC出来高差のマイナス金額が大きい症例のコーディングを再検討した。DPC機能評価係数Ⅱを構成する7つの係数で全て前年度より高い評価をとり、H28実績では全国こども病院内でトップとなった。</li> <li>・担当職員が様々な研修会に出席してスキルアップを図っている。</li> <li>・医師等に対して、カンファレンスの際、入院後3日以内のDPC病名入力率向上の必要性を説明して入力率が向上している。(54%:H28.5時点⇒88%:H29.3時点)</li> </ul>			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																							
開催回数	2	2	4	4	4	4																							
出席者数	37	19	23	54	56	56																							
80	公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 部門別、診療科別原価計算に取り組む。	<p>H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者との設定調整を行っており、本格稼働に向けて調整中。運用開始後は、D P Cデータや財務会計システムを用いて診療科別、部門別の原価計算を行う予定である。</p>	<p>原価計算システムの運用に向けて調整中。</p>	<p>H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者と本格稼働に向けて細部の調整中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「運用に向けて調整中」とあるが、具体的な運用時期（見込）について…今年度中の運用開始は困難。今後の速やかな運用開始に向けて調整中である。</li> <li>・職員の養成については、担当職員が講習会や勉強会に出席しているが、経営改善への実用化に至っていない。</li> </ul>																								
	診療科別に経年変化を明らかにする原価計算に取り組む。	<p>H26年度に導入検討を始め、H27年度には原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、H28年度から本格的な運用を開始した。運用開始後は、DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。</p>	<p>原価計算システムの導入により、診療科別の損益を計算することが可能となった。</p>	<p>H27年度に原価計算システムを導入しH26年度からH27年度分の原価計算を行った。計算結果を経営改善に役立てる活用方法の整備、原価計算に精通した職員の養成及び、このデータの活用を図っていく。</p>																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価		事務局確認事項																																						
						説明	説明	説明	説明																																							
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談などを通じて調査及び研究の成果を県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会を開催するとともに、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進める。	1 3 (3)	1 3 (3)	県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供	81 県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。	A-	公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができた。また、同時に、機構の取組みについてもPRすることができた。	A-	期間を通じ、参加者数は年々増加傾向にあり、引き続き、病院の特色を活かした公開講座を行う。	・期間を通して継続的に実施され、病院の機能や医療に関する知識について周知されている。																																					
						82 県民向けイベントへの開催や参加に努める。	<p>・H29 ・静岡県立総合病院の機能、設備、職員の姿を知ってもらうこと によって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせ、「県民の日講演会」を8/20に開催した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <table border="1"> <caption>オープンホスピタル来場者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>900</td> <td>-</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,500</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,500	A	H29年度のオープンホスピタルの来場者数は約1,400人を記録し、過去最高となった。これは、当院HPなどで行った広報活動やイベント内容を充実させた効果と考えている。多くの来場者に当院をPRすることができ、好評を得た。	A	オープンホスピタルのイベント数は、H25年度37件からH29年度は42件と1.15倍となり、毎年度工夫を凝らした出展が行われている。来場者数も、H25年度900人から毎年度100人程度の安定的な増加数を推移している。H29年度以降は先端医学棟の機能や設備の紹介を積極的に行っていく。	同上																						
						区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																				
来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,500																																										
<p>(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつりinツインメッセ」に2日間参加し、健康相談及びこどもの医師・ナース服の着用体験のブースを出展した。</p> <p>こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位:組、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>1,052</td> <td>873</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>957</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	健康相談	28	6	10	17	22	22	写真撮影	1,052	873	859	1,288	957	957	A	県民向けイベントへ参加し、多くの来場者に当院をPRすることができた。また、情報提供も着実に推進している。	A	期間中、県民向けイベントへ継続して参加し、こども病院のPRに努め、情報提供も着実に推進した。	同上																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																										
健康相談	28	6	10	17	22	22																																										
写真撮影	1,052	873	859	1,288	957	957																																										
83 県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	<p>・H29 機構全体のトピックスなどメインとなるページの見直しや、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 各病院の医療情報やトピックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のアピールにつながった。(H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。)</p> <table border="1"> <caption>セクション別アクセス件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>291,958</td> <td>316,047</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>254,000</td> <td>289,000</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,582,445</td> <td>1,742,978</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,149,000</td> <td>2,446,000</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>275,237</td> <td>285,800</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>290,000</td> <td>390,000</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,518,204</td> <td>1,510,609</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,637,000</td> <td>1,864,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,667,844</td> <td>3,855,434</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,330,000</td> <td>4,989,000</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	254,000	289,000	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,149,000	2,446,000	こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	290,000	390,000	こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,637,000	1,864,000	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,330,000	4,989,000	A	先端医学棟の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。その結果アクセス数も増加しているため、引き続き積極的な情報発信に努める。	A	機構及び3病院のホームページのリニューアルや、トピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図った。機構全体で、アクセス数は増加傾向にあり、情報提供は着実に推進している。	・最新情報が随時更新されており、外部への情報提供が適切に実施されている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																										
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	254,000	289,000																																										
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,149,000	2,446,000																																										
こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	290,000	390,000																																										
こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,637,000	1,864,000																																										
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,330,000	4,989,000																																										
84 県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	<p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。</p> <table border="1"> <caption>記者情報提供件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>34</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	提供件数	46	40	41	48	48	48	掲載件数	27	25	27	31	34	34	A	県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。 提供件数は高い水準を保っており、情報提供についての意識向上に繋がっている。	A	記者情報提供件数は増加しており、情報提供は着実に推進している。 機構全体の実績の把握及び情報共有を図ることができた。	・継続的に実施されており、件数も増加している。																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																										
提供件数	46	40	41	48	48	48																																										
掲載件数	27	25	27	31	34	34																																										



中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																					
						説明	説明	説明	説明																						
			88	ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。	・H29『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 ・第2期中期期間（H26～30）主な業務である静岡県医学修学研修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。  配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）（単位：名） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> ※配置調整は各前年度となる。	勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	配置調整医師数	6	12	14	34	64	63	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39	A	業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。	A	県内医療機関に勤める奨学金利用者が着実に増加しており、県の医師確保施策に寄与できている。	・地域医療支援センター機能の一部である「医学修学資金貸与者の勤務先病院の調整」、「研修医の就業・キャリア形成の相談」等の業務を受託している。 ・年々、調整対象者数が増加しており、本年度は配置調整対象医師数：64名について本人及び医療機関との調整を行い41名が県内勤務を開始した。
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																									
配置調整医師数	6	12	14	34	64	63																									
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																									
			89	専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	総合 ・H29プログラムの作成を7領域において行い、全領域において「日本専門医機構」の審査を受け、合格した。 ・H30年度より開始する新専門医制度に向けて、全診療科の状況把握を行った。 ・ホームページの広報など、積極的に募集を行っている。  精神科 ・H29H30年度より開始する新専門医制度に向けて、プログラムを作成した。 精神科領域のプログラムについては、10月6日付で2審査に合格した。 ・第2期中期目標期間（H26～30）プログラム作成について、2次審査に合格した。  小児科 H29年度から新制度に準じて実施される小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に則った研修を実施している。	B	プログラムの作成を7領域において行い、全領域において審査の合格を受けた。給与体系の見直しや医師宿舎などの受入れ体制を整え、専攻医を募集したが、応募は少なかった。今後は新専門医制度の動向に注視する。	B	プログラムの作成を7領域において行い、全領域において審査の合格を受けた。給与体系の見直しや医師宿舎などの受入れ体制を整えた。今後は新専門医制度の動向に注視する。	・新専門医制度の開始に向けて各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備した。 応募状況は以下のとおり 総合：募集：38人⇒応募：5人 ところ：募集：3人⇒応募：1人 こども：募集：8人⇒応募：3人 ・4月から始まる新専門医制度では大都市の大学病院等に研修希望者が集中し、地方では厳しい状況になっている。 ・県全体で卒後3年目医師数：168人に対して県内基幹プログラムへの応募者は109人となっている。（H29.11.24時点） ・また、総合病院では新たな医師宿舎の整備に着手するなど若手医師を確保するための受入体制を整備している。																					
						B	新制度による研修受入体制は整備しているが、平成29年度は11月末現在で1名の採用に留まっている。	B	平成28年度に研修医用宿泊施設を整備し、平成29年度から新制度に則った研修を実施した。 平成28年度には定員どおり8名を、平成29年度は11月末現在で1名の採用を行った。																						

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価		事務局確認事項																																								
						説明	説明																																											
(2)地域医療への支援 高度医療機器の共同利用の促進、他の医療機関等との医療情報のネットワーク化など、地域医療との連携を進め、地域医療の確保への支援を行うこと。	(2)地域医療への支援 情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワークづくりを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	1 4 (2)	90	地域の医療機関や健診センターへの啓蒙活動を継続し、PET共同利用率の向上を図る。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">PETイメージングセンター共同利用 (単位: 件、%)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,235</td> <td>4,088</td> <td>4,088</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>1,429</td> <td>1,010</td> <td>1,010</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>40</td> <td>39.7</td> <td>38.5</td> <td>33.7</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>検診件数</td> <td>10</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>168</td> <td>166</td> <td>166</td> </tr> </tbody> </table>	PETイメージングセンター共同利用 (単位: 件、%)							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	4,088	4,088	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	1,010	1,010	共同利用率	40	39.7	38.5	33.7	26	26	検診件数	10	165	155	168	166	166	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PETの共同利用件数は減少傾向にあるが、地域の医療機関との連携・支援が着実に進んでいる。</li> <li>・3検診機関と連携した利用も実施している。</li> <li>■PETセンター 地域の医療機関の予約枠を9枠/日(医療機関用4枠、検診枠4枠、てんかん1枠)設けている。地域の医療機関からのPET検査依頼数が増えているが、H29年度は静岡市立病院がPETを独自整備したため共同利用率は減少している。</li> </ul>
					PETイメージングセンター共同利用 (単位: 件、%)																																													
					区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
件数	4,121	4,211	4,276	4,235	4,088	4,088																																												
共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	1,010	1,010																																												
共同利用率	40	39.7	38.5	33.7	26	26																																												
検診件数	10	165	155	168	166	166																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">CT、MRI共同利用 (単位: 件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>833</td> <td>782</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>828</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>628</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>520</td> <td>520</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>148</td> <td>148</td> </tr> </tbody> </table>	CT、MRI共同利用 (単位: 件)							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	CT	833	782	815	919	828	828	MRI	628	591	645	621	520	520	CT(撮影のみ)	8	7	1	6	4	4	MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	148	148	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CT・MRIの共同利用件数も減少傾向にあるが、地域の医療機関との連携・支援が着実に進んでいる。</li> <li>■CT、MRIの共同利用 主な医療機関のみ抜粋 ・静岡てんかん・神経センター ・服部クリニック ・田中消化器内科クリニック ・てらむらクリニック</li> </ul>					
CT、MRI共同利用 (単位: 件)																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																												
CT	833	782	815	919	828	828																																												
MRI	628	591	645	621	520	520																																												
CT(撮影のみ)	8	7	1	6	4	4																																												
MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	148	148																																												
			92	「ふじのくにパル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地方の中核病院、自治体病院、診療所・医師会等とともに「ふじのくにパル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期中期期間(H26~30) H27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。</li> <li>・H28 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、データセンター及び県立総合病院連携サーバーの更新を行った。また、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。</li> <li>・H29 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続け、地域の医療機関等での連携が強化されている。</li> <li>・システム機器の更新時期を迎えることを契機に、費用負担のあり方等を含めた事業の利用規程を理事会で決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。(H28年度から利用料の徴収を開始)</li> <li>・補助金を活用し、システム機器の更新と新規開示施設でのシステム整備を行った。</li> </ul>																																										
			93	国内外の医療機関との映像情報を通じた研修や診断を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センターとの接続試験を兼ねた症例検討会を定期的実施している。</li> <li>・他医療機関と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立病院と連携している。</li> <li>・岩手医科大学とは、岩手医科大学における症例について、こども病院の循環器センター医師との間で、テレビ会議システムによるカンファレンスを行った(H29.11)。</li> </ul>																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価	第2期(H26~30)自己評価	事務局確認事項																																																																																																																						
						説明	説明																																																																																																																							
(3) 社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。	(3) 社会的な要請への協力 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していく。	1 4 (3)	94	院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	<table border="1"> <caption>拡大がんセンターボード会議（関係者定例会）</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>5回</th> <th>5回</th> <th>5回</th> <th>5回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> <th>6回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>161</td> <td>169</td> <td>156</td> <td>156</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>261</td> <td>172</td> <td>136</td> <td>136</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>237</td> <td>228</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>292</td> <td>292</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		5回	5回	5回	5回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	回数	-	-	-	161	169	156	156	-	-	-	-	-	参加人数	-	-	261	172	136	136	-	-	-	-	-	-	合計	237	228	422	332	292	292	-	-	-	-	-	-	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の医療従事者も参加できるカンファレンス等(拡大がんセンターボード)を定期的に開催し、地域医療機関等との情報共有の場として積極的な意見交換を行った。</li> <li>拡大がんセンターボードは、H25に年5回開催だったものを、H27から年6回開催に増やし、参加人数の増加に努めている。</li> <li>多職種医療チームが参加してがんの症例検討を行う「拡大がんセンターボード」に地域の医療・介護従事者も参加して意見交換を行うことで総合病院のがん診療について周知されている。</li> </ul>																																																						
					区分		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																													
						5回	5回	5回	5回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	6回																																																																																																													
					回数	-	-	-	161	169	156	156	-	-	-	-	-																																																																																																													
					参加人数	-	-	261	172	136	136	-	-	-	-	-	-																																																																																																													
合計	237	228	422	332	292	292	-	-	-	-	-	-																																																																																																																		
95	他団体の講師派遣依頼に協力する。	<table border="1"> <caption>講師派遣実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>78</td> <td>78</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>36</td> <td>4</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>145</td> <td>94</td> <td>66</td> <td>94</td> <td>94</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		医師	68	73	58	62	78	78	-	-	-	-	-	その他	62	72	36	4	16	16	-	-	-	-	-	計	130	145	94	66	94	94	-	-	-	-	-	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>他団体等が主催する講演会の講師として医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。</li> <li>期間を通じて、その他の職種についてはやや減少傾向であるが、医師については例年同件数である。引き続き積極的な地域支援を行っていく。</li> <li>県立大学・県立短大看護学部での講師等などを務めている。</li> <li>団体からの依頼に対しては概ね応えられている。</li> </ul>																																																																								
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																		
	医師	68	73	58	62	78	78	-	-	-	-	-																																																																																																																		
その他	62	72	36	4	16	16	-	-	-	-	-																																																																																																																			
計	130	145	94	66	94	94	-	-	-	-	-																																																																																																																			
96	他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	<table border="1"> <caption>院外講演会講師派遣状況(医師) (単位:回)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位:回)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		派遣回数	17	25	30	18	19	19	-	-	-	-	-	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		派遣回数	24	30	22	32	28	28	-	-	-	-	-	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>他団体等が主催する講演会の講師として医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。</li> <li>期間中、精神科医療に係る講師派遣等の社会的な要請に対し、医師、看護師を派遣する等、柔軟に対応した。</li> <li>日本精神科看護技術協会研修の講師、厚生省科研究への協力、県立大学・県立短大看護学部での講師、静岡市立清水看護学校での講師、出前講座の講師、ケアマネージャー研修の講師、司法関連公開講座の講師などを務めている。</li> </ul>																																																																							
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																		
	派遣回数	17	25	30	18	19	19	-	-	-	-	-																																																																																																																		
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																			
	派遣回数	24	30	22	32	28	28	-	-	-	-	-																																																																																																																		
97	医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29</li> <li>鑑定などへの対応</li> <li>医療観察法の鑑定医として協力</li> <li>CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人</li> <li>第2期中期目標期間(H26~30)</li> </ul> <table border="1"> <caption>医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		こころ	6	10	7	9	16	16	-	-	-	-	-	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内精神医療の中核病院として、医療にかかる鑑定等の要請への協力などに積極的に対応した。</li> <li>期間中、公的機関からの医療に係る鑑定や調査の社会的な要請に対し、県内精神医療の中核病院としての確に対応できた。</li> <li>医療観察法の鑑定医として、県内各方面からの鑑定等の要請に対応し社会的要請に応えている。</li> <li>また、指定入院機関従事者や医療観察法に係る弁護士等が参加する研修会等にスタッフを派遣し、スキルアップを図っている。</li> </ul>																																																																																																
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																		
	こころ	6	10	7	9	16	16	-	-	-	-	-																																																																																																																		
98	特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	<table border="1"> <caption>精神保健福祉法関係実施実績</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>巡回相談</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>小児</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	児童	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	小児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	合計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図った。</li> <li>子ども心の診療ネットワーク事業における静岡県の拠点病院として、学校関係者や家族への情報提供や研修会、巡回相談を開催しており、診療実績から県内における中核機関としての役割を發揮していると言える。(= No. 21, 51)</li> </ul>																																																													
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																		
	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談	巡回相談																																																																																																																			
児童	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10																																																																																																																			
小児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10																																																																																																																			
合計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20																																																																																																																			
99	小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	<table border="1"> <caption>公費負担患者状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1,891</td> <td>1,891</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>831</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>733</td> <td>733</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>224</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>225</td> <td>225</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>128</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>138</td> <td>148</td> <td>148</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>135</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>147</td> <td>147</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>110</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>106</td> <td>106</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>123</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>3,370</td> <td>3,370</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,891	1,891	-	-	-	-	-	育成医療	831	657	721	722	733	733	-	-	-	-	-	養育医療	224	179	258	240	225	225	-	-	-	-	-	特定疾患	128	134	7	6	7	7	-	-	-	-	-	特定疾病	-	33	157	138	148	148	-	-	-	-	-	生活保護	135	100	172	181	147	147	-	-	-	-	-	精神保健	110	117	96	102	106	106	-	-	-	-	-	その他	123	112	97	111	111	111	-	-	-	-	-	計	3,172	3,490	3,409	3,391	3,370	3,370	-	-	-	-	-	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費負担患者の利便性を重視して対応した。</li> <li>患者にとって公費負担申請は手続きが煩雑であることから、今後も引き続き患者の利便性を重視した対応が求められる。</li> <li>なお、これまで公費申請のための意見書等について無料としてきたが、近隣公的病院の状況を鑑み金額設定のうえ徴収することとしている。</li> </ul>
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																		
	小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,891	1,891	-	-	-	-	-																																																																																																																		
育成医療	831	657	721	722	733	733	-	-	-	-	-																																																																																																																			
養育医療	224	179	258	240	225	225	-	-	-	-	-																																																																																																																			
特定疾患	128	134	7	6	7	7	-	-	-	-	-																																																																																																																			
特定疾病	-	33	157	138	148	148	-	-	-	-	-																																																																																																																			
生活保護	135	100	172	181	147	147	-	-	-	-	-																																																																																																																			
精神保健	110	117	96	102	106	106	-	-	-	-	-																																																																																																																			
その他	123	112	97	111	111	111	-	-	-	-	-																																																																																																																			
計	3,172	3,490	3,409	3,391	3,370	3,370	-	-	-	-	-																																																																																																																			

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	29実績 自己評価		事務局確認事項			
						説明	説明				
第2 <b>5 災害等における医療救護</b> 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担うとともに、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	第2 <b>5 災害等における医療救護</b> 地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県は、県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	1 5	1 5	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	-	-	-	-	-		
(1) 医療救護活動の拠点機能 災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること、また、県立こころの医療センターは、災害時における精神医療分野の、県立こども病院は、災害時における小児医療分野のそれぞれにおける基幹的役割を果たすこと。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上していくとともに、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外DMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	1 5 (1)	1 5	医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	-	-	-	-	-		
			100	・災害医療訓練を実施する。 ・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようにする。	総合 ・H29 先端医学棟2階に災害対策本部を整備した。 H29実績 7.13 県立総合病院を想定した緊急訓練に参加。 7.29 県からの委託事業として、静岡県消防防災アカデミー研修会に参加した。(50人) 8.31 県内防災センターに申し、熊本地震の医療救護を実施した。(医療救護職員を中心に11名参加) 9.3 県からの委託事業として、静岡県消防防災アカデミー研修会に参加した。(50人) ・第2期中期期間（H26～30） 毎年度12月第1日曜日（静岡県地域防災の日）に全職種を対象としたトリアージ訓練（200名程度参加）を行っている。 H26に防災マニュアルの改訂を行った。 H28より県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	A	期間中、実践的な災害医療訓練を定期的に開催している。また、防災マニュアルの見直しを行うなど、発生時に迅速な対応がとれるよう努めている。 H28より県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託するなど基幹災害拠点病院としての役割を果たしている。	・基幹災害拠点病院として災害医療に関する県の中心的役割を果たすため、県総合防災訓練や大規模地震時医療活動訓練等に参加した。 ・また先端医学棟内に災害対策本部を整備し、医療救護体制の強化が図られている。	
			101	・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	メンタル H29防災訓練（避難訓練）の実績・企画 H29.7.29 総合病院（大規模地震時医療活動訓練）における避難訓練に参加 H29.8.31 県立総合病院（本館運営）において、メール等による情報伝達訓練に参加 H29.9.29 民間の病院における大規模災害を想定した訓練を実施 H29.9.13～15 県立こころの医療センターに申し、熊本地震の医療救護を実施した。 H29.11.27 災害時情報交換システムによる情報伝達訓練を実施。視察の機会における大規模災害を想定した避難訓練を実施。 DMAT.1.15 県立こころの医療センターにおいて、メール等による情報伝達訓練に参加。 ・第2期中期目標期間（H26～30） 院内だけでなく、県、市等と連携した防災訓練に参加した。	A	災害時に対する日頃の備えに努めるため、情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、各種訓練を企画、実施した。	A	日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催し、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上していくとともに、災害等の発生時には、県内外DMAT（災害派遣精神医療チーム）の体制整備など、精神科医療の分野で基幹的役割を果たすための医療体制整備に取り組んだ。	・DPAT政府訓練等、各種訓練やAED取扱い研修等に参加しており、救急医療体制等の充実強化が図られている。 ・今後「災害拠点精神科病院」を担っていくため、院内研修を実施し、トリアージ訓練を行った（H30.1.14） ・平成28年4月に発生した熊本地震に精神科班チームを2班派遣し、被災地域における精神科医療及び精神保健活動の支援に貢献した。	
			102	・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	こども H29年11月に全職種を対象にトリアージ訓練、H30年2月には、夜間想定防火避難訓練を実施する。	A	小児医療の拠点病院として、各種防災訓練を企画・実施した。	A	期間中、各種防災訓練を実施し、H28年度には小児医療総合施設協議会の広域災害時相互支援に関する協定を締結し、災害時における小児の拠点病院としての役割を果たせるよう体制整備に努めた。	・平成28年度に日本小児総合医療施設協議会に加盟する医療機関34施設との「広域災害時相互支援に関する協定書」締結により、大規模災害時における施設間での情報共有や後方支援の充実が図られている。 ・また、DPAT指定機関としてこころの医療センターと合同チームを編成し、災害時における児童精神分野にも対応可能となった。	
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	1 5 (2)	1 5 (2)	他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103 災害医療救護応援班の訓練を実施する。	総合 ・H29 災害医療救護応援班の訓練を実施した。 H29実績 7.13 県と連携し、情報伝達訓練に参加。（県健康福祉部防災訓練） 7.29 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）においてDMAT1チーム（4人）を派遣した。 8.31 県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員4人が参加した。 9.3 県・南駿地域総合防災訓練（実働）にDMAT1チーム（4人）が参加した。 DMAT訓練回数 (単位：回) 区分 26年度 27年度 28年度 29年度見込 30年度見込 訓練 - 7 6 8 8 8	A	チーム内で適切に情報を伝達・共有し、仮想被害状況に応じたDMATの配置し、他チームとの連携強化を行った。	A	積極的かつ継続的に訓練に参加することで、H28.4.23～27 熊本地震に県医療救護班として医療救護活動（1チーム（5人））を行った際も現地でスムーズな救護活動を行えた。	・医師9人、看護師11人、業務調整員6人による4チームのDMATのチーム編成が可能となり、各種訓練への実施・参加している。熊本地震の際にはチーム派遣し救護活動を行った。 ・DPAT政府訓練や先遣隊研修に参加し、体制強化を図った。

中期計画		第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																														
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価																																																																										
						説明	事務局確認事項																																																																									
<b>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</b> 医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、業務運営の改善及び効率化に努め、生産性の向上を図ること。	<b>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</b> 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりを努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりを努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。																																																																														
<b>1 簡素で効率的な組織づくり</b> 医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、簡素で効率的な組織体制を確立すること。	<b>1 簡素で効率的な組織づくり</b> 医療環境の変化や県民の医療ニーズに的確に応じられるよう簡素で効率的な組織づくりを進めるとともに、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。	II 簡素で効率的な組織づくり 1 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取組み	104	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。</li> <li>理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。</li> <li>看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。</li> </ul>	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 勤務成績評価制度の試行を行うとともに、平成30年4月から県に準拠した人事評価制度の導入することを職員組合と合意した。 勤務成績評価制度試行状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師（管理監督者）</td> <td>平成26年10月～</td> </tr> <tr> <td>看護師（副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（管理監督者）</td> <td>平成27年10月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>事務職員（アロバー職員副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> </tbody> </table>	対象	実施時期	看護師（管理監督者）	平成26年10月～	看護師（副主任以上）	平成28年4月～	コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～	コメディカル（副主任以上）	平成28年4月～	事務職員（アロバー職員副主任以上）	平成28年4月～	A 毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 勤務成績評価制度の試行については、本部と各病院が連携し円滑に実施することができ、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の理事会、運営会議を通じて機構内の情報共有が図られている。</li> <li>勤務評価制度では看護師・コメディカル・アロバー事務職員を対象に1次・2次評価者を定め公平性・客観性を確保して実施している。</li> <li>フィードバック面談を通じて指導・助言を行うことで人材育成につなげるとともに昇任人事への参考としており職員のモチベーション向上につなげている。</li> <li>なお、H30年度から、改正地方公務員法により義務化された新たな人事評価制度を導入し、昇任・昇給にも活用していくことを検討している。</li> </ul>																																																													
対象	実施時期																																																																															
看護師（管理監督者）	平成26年10月～																																																																															
看護師（副主任以上）	平成28年4月～																																																																															
コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～																																																																															
コメディカル（副主任以上）	平成28年4月～																																																																															
事務職員（アロバー職員副主任以上）	平成28年4月～																																																																															
<b>2 効率的な業務運営の実現</b>	<b>2 効率的な業務運営の実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が専門性を十分に発揮できるよう体制を整備するとともに、業務量に応じた柔軟な職員配置に努める。</li> </ul>	II 効率的な業務運営の実現 2 効果的な職員採用 ・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ・優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ・柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ・パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	105	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29 経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師（医学物理士）1人を採用した。</li> <li>初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1名、言語聴覚アソシエイト2名を採用内定した。</li> <li>第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。</li> <li>H28年度からアソシエイトの制度を導入した。</li> </ul>	初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1名、言語聴覚アソシエイト2名を採用内定した。 ・第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。 H28年度からアソシエイトの制度を導入した。 看護師修学資金の状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸付</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>105</td> <td>603</td> </tr> <tr> <td>借付</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>698</td> </tr> <tr> <td>貸付計</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲6</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>262</td> <td>1,173</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>62</td> <td>249</td> </tr> </tbody> </table> アソシエイト採用実績 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 採用関係ホームページアクセス数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間</td> <td>88,062</td> <td>69,555</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>アクセス数</td> <td>9月末</td> <td>55,834</td> <td>42,548</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>45,027</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※H27に現システムを使用開始 H27は事務、コメディカル採用試験分を含む	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	計	貸付	73	74	123	88	105	603	借付	52	80	99	126	163	698	貸付計	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲48	貸与計	119	142	211	209	262	1,173	採用	38	33	76	40	62	249	区 分	28年度	29年度	看護師	5	1	事務	2	2	コメディカル	-	3	計	7	6	区 分	27年度	28年度	29年度	年間	88,062	69,555	-	アクセス数	9月末	55,834	42,548			45,027		A 事務職員・看護職員・コメディカルのうち、優秀な有期職員について、アソシエイトの登用を進めている。コメディカルのアソシエイトについては公募試験を開始した。ホームページへの掲載や就職セミナーへの参加など積極的に広報を行い、人材の確保につながっている。 看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>優秀な人材を確保する方策のひとつとしてH28年度から「アソシエイト(昇任・昇格・退職手当のない無期雇用職員)」という職員区分を創設して有期職員から正規雇用へ登用する仕組みを設け、有期職員の勤務実績を評価する仕組みによりモチベーションの向上に繋がっている。</li> <li>看護師修学資金の貸与者は順調に推移しており、併せて各種媒体を活用した募集広報により看護師確保は順調に行われている。(H30採用予定者:112人 H29:136人)</li> </ul>
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	計																																																																										
貸付	73	74	123	88	105	603																																																																										
借付	52	80	99	126	163	698																																																																										
貸付計	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲48																																																																										
貸与計	119	142	211	209	262	1,173																																																																										
採用	38	33	76	40	62	249																																																																										
区 分	28年度	29年度																																																																														
看護師	5	1																																																																														
事務	2	2																																																																														
コメディカル	-	3																																																																														
計	7	6																																																																														
区 分	27年度	28年度	29年度																																																																													
年間	88,062	69,555	-																																																																													
アクセス数	9月末	55,834	42,548																																																																													
		45,027																																																																														

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価																																													
						説明	事務局確認事項																																												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療報酬など収入の適正な確保を図るとともに、業務の内容に応じた多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト縮減に取り組み、効率的な業務運営に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療報酬など収入の適正な確保</li> <li>業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト縮減</li> </ul>	106	<ul style="list-style-type: none"> <li>未収金の圧縮を図るため、未収金の収納勧奨等について外部の専門会社を活用する。</li> <li>医療費に係る相談体制の充実・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。</li> </ul>	<p>24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。</p> <table border="1"> <caption>29年度9月末 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度末 未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>H29.9月末 未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>19,120</td> <td>18,230</td> <td>6,739</td> <td>3,737</td> <td>26,874</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>6,873</td> <td>4,378</td> <td>556</td> <td>186</td> <td>10,509</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>8,483</td> <td>1,262</td> <td>1,447</td> <td>3,323</td> <td>4,975</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34,476</td> <td>23,870</td> <td>8,742</td> <td>7,246</td> <td>42,358</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>未収金回収率の推移 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回収率</td> <td>45.4%</td> <td>59.0%</td> <td>65.2%</td> <td>71.9%</td> <td>79.1%</td> <td>87.0%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度末 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H29.9月末 未回収額	総合	19,120	18,230	6,739	3,737	26,874	ところ	6,873	4,378	556	186	10,509	こども	8,483	1,262	1,447	3,323	4,975	計	34,476	23,870	8,742	7,246	42,358	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	79.1%	87.0%	<p>未収金回収業務の外部委託により回収率が改善しており、収入の適正な確保を図られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H24年度から業務委託先を債権回収会社から弁護士法人に改め引き続き未収金対策を行っている。(委託料は回収額の30%)</li> <li>H23以前は回収率が26%程度だったものが80%程度まで改善する見込み。</li> <li>未収金を発生させないことも重要であることから、研修会の開催等により病院職員の意識を高める取組も行われている。</li> <li>未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで適切な手順をとるよう体制が整備されている。</li> </ul>
区分	28年度末 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H29.9月末 未回収額																																														
総合	19,120	18,230	6,739	3,737	26,874																																														
ところ	6,873	4,378	556	186	10,509																																														
こども	8,483	1,262	1,447	3,323	4,975																																														
計	34,476	23,870	8,742	7,246	42,358																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																													
回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	79.1%	87.0%																																													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫減少に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29</li> <li>薬品、診療材料在庫額</li> <li>薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。</li> <li>診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数を在庫へ実在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。</li> <li>診療材料は手術室増加に伴い、前年度より増加している。手術室の増加率に対して、診療材料は▲10,672千円削減できている。</li> <li>第2期中期期間(H26～30)</li> <li>診材期限切れによる廃棄額は、H29.9末時点で399千円で、昨年同時期と比較して49%減である。これは適正在庫を先入れ先出しで運用できていることと、不動態在庫の使用促進の効果が出ているため。診材在庫は新棟の影響により手術室在庫が増えているが、病棟▲1,352千円、検査▲2,005千円と削減できている。</li> </ul> <table border="1"> <caption>薬品・診療材料在庫額 (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>162,822</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>104,713</td> <td></td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>180,834</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>1204,276</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>35,919千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	104,713		診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	1204,276		※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額				35,919千円			107	<ul style="list-style-type: none"> <li>在庫額については、新棟手術室の影響で前回より増えているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって削減することができた。</li> </ul>	<p>期限切れについては、切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙したり、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みを行っている。また不動態在庫をリスト化し、使用促進の効果が出ている。</p> <p>在庫額については、新棟手術室の影響で前回より増えているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって削減することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療材料費の節減や減耗費の圧縮は利益率の向上に直結するため在庫量の適正管理に取り組んでいる。</li> <li>全国的なベンチマーク活用による価格交渉に加え、診療材料委員会での機内情報の共有、削減促進の取組を実施している。</li> <li>診療材料の減耗(破損、期限切れ、廃棄)の発生防止にも取り組み、前年度より減少(14百万円程度)する見込み。</li> <li>在庫額は新棟手術室増加の影響で28年度より増加しているものの、取組の効果により在庫を圧縮することができている。</li> <li>※SPDは対象物の物流管理業務・手術室等支援業務・コスト削減や収入アップ提言業務を委託概要とし、価格交渉等の単価契約業務を除く、発注・検収・払出・在庫確認・棚卸業務等を行う。平成29.9から日本ホスピタルライアンスへの加盟により、対象品の統一価格への適応や購入量に応じた削減効果が見込まれる。(平成29年度▲530万円見込、平成30年度循環器等加盟分野増により▲3,400万円見込) なお、対象品でないものは今までどおり院内で価格交渉を行っていただく必要がある。こころ・こどもについては、現時点では経費に見合う削減効果が得られないため、加盟していない。</li> </ul>																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																													
薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	104,713																																														
診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	1204,276																																														
※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額				35,919千円																																															
	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に施設基準を取得する。</li> <li>診療報酬の適正請求にかかわる研修会等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29</li> <li>診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ。(特定共同指導の結果について 1月開催予定、診療報酬改定について 3月開催予定)</li> <li>H29施設基準取得状況</li> <li>新棟開棟に伴い、重症病棟の充実化を進めた。(ICUのランクアップ、HCUの増床)</li> <li>精神患者への対応範囲を入院にも広げることで、総合入院体制加算のランクアップに繋がった。</li> <li>新規医療技術について適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(在宅埋込型補助人工心臓管理料、皮膚悪性腫瘍手術等)(こころ)</li> <li>診療体制における新たな取り組みに対する適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(患者サポート体制充実加算)</li> </ul>	108	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規やランクアップの届出が可能な項目について積極的に届出を行うよう務めた。</li> </ul>	<p>請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。</p> <p>新規やランクアップの届出が可能な項目について積極的に届出を行うよう務めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合病院において、特定集中治療管理料のランクアップ(50,000千円程度の増収見込)のほか、金額が少ないが新規取得:4件を取得済み。今後も、総合入院体制加算のランクアップを目指すなど収入確保の取組が進められている。</li> <li>診療報酬に係る研修会等を開催することで、適正請求とともに新たな施設基準の取得に向けた意識付けが行われている。</li> <li>次期診療報酬改定(H30～)への対応に向けた準備も必要である。</li> </ul>																																													

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価																																																																																																																																																																									
						説明	事務局確認事項																																																																																																																																																																								
			109	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料費等の節減のための対策を実施する。</li> <li>診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H29</li> <li>各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の意識を徹底し、適正な調達に努めている。</li> <li>診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。</li> <li>薬品費の節減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー卸業者制度を継続するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を6社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。</li> <li>破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。</li> <li>第2期中期期間(H26～30)</li> </ul> <table border="1"> <caption>診療材料コスト継続実績 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>見込</th> <th>実績</th> <th>見込</th> <th>実績</th> <th>見込</th> <th>実績</th> <th>見込</th> <th>実績</th> <th>見込</th> <th>実績</th> <th>見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2,109</td> <td>4,344</td> <td>66,499</td> <td>24,900</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>90</td> <td>0</td> <td>441</td> <td>107</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>79</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>2,422</td> <td>19,191</td> <td>6,707</td> <td>8,320</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,621</td> <td>23,600</td> <td>73,647</td> <td>33,427</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> <td>28,109</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>29年度新規購入・廃止した診療材料・薬品、品目数の実績(29.9月末) (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">29年度前</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">29年度前</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>新発注品数</th> <th>廃止品数</th> <th>新発注品数</th> <th>廃止品数</th> <th>新発注品数</th> <th>廃止品数</th> <th>新発注品数</th> <th>廃止品数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>11,776</td> <td>4,615</td> <td>1,690</td> <td>14,701</td> <td>1,654</td> <td>31</td> <td>41</td> <td>1,644</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>408</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>408</td> <td>710</td> <td>54</td> <td>61</td> <td>703</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>4,132</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>4,137</td> <td>1,282</td> <td>17</td> <td>11</td> <td>1,288</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16,316</td> <td>4,656</td> <td>1,726</td> <td>19,246</td> <td>3,646</td> <td>192</td> <td>113</td> <td>3,635</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>H29.9月末 総量・総損額単位：千円</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度前</th> <th>29年度</th> <th>29年度前</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3,052</td> <td>2,901</td> <td>1,954</td> <td>1,954</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>46</td> <td>88</td> <td>134</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>745</td> <td>1,116</td> <td>1,861</td> <td>1,861</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,843</td> <td>4,105</td> <td>2,949</td> <td>2,949</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>H29年度 薬品、後発品採用率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度前</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10.3</td> <td>16.9</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>18.3</td> <td>23.5</td> </tr> <tr> <td>心臓系</td> <td>12.4</td> <td>17.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		実績	見込	総合	2,109	4,344	66,499	24,900	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	心臓系	90	0	441	107	79	79	79	79	79	79	79	79	心臓系	2,422	19,191	6,707	8,320	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	合計	4,621	23,600	73,647	33,427	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	区分	29年度前		29年度		29年度前		29年度		新発注品数	廃止品数	新発注品数	廃止品数	新発注品数	廃止品数	新発注品数	廃止品数	総合	11,776	4,615	1,690	14,701	1,654	31	41	1,644	心臓系	408	23	23	408	710	54	61	703	心臓系	4,132	18	13	4,137	1,282	17	11	1,288	合計	16,316	4,656	1,726	19,246	3,646	192	113	3,635	区分	29年度前	29年度	29年度前	29年度	総合	3,052	2,901	1,954	1,954	心臓系	46	88	134	134	心臓系	745	1,116	1,861	1,861	合計	3,843	4,105	2,949	2,949	区分	29年度前	29年度	総合	10.3	16.9	心臓系	18.3	23.5	心臓系	12.4	17.0	A	(総合) <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称:NHA)」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行っている。</li> </ul> 診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の見直しなどに取り組むことで、約14百万円削減した。 薬品費については、カテゴリ別に値引率と金額割合の分析を行った上で価格交渉を実施した。また、一部の高額医薬品について、院内処方に取り替えて収益の増加を図った。	(No. 107と同様)										
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度																																																																																																																																																																				
	実績	見込	実績	見込	実績	見込	実績	見込	実績	見込	実績	見込																																																																																																																																																																			
総合	2,109	4,344	66,499	24,900	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292	21,292																																																																																																																																																																			
心臓系	90	0	441	107	79	79	79	79	79	79	79	79																																																																																																																																																																			
心臓系	2,422	19,191	6,707	8,320	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548	6,548																																																																																																																																																																			
合計	4,621	23,600	73,647	33,427	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109	28,109																																																																																																																																																																			
区分	29年度前		29年度		29年度前		29年度																																																																																																																																																																								
	新発注品数	廃止品数	新発注品数	廃止品数	新発注品数	廃止品数	新発注品数	廃止品数																																																																																																																																																																							
総合	11,776	4,615	1,690	14,701	1,654	31	41	1,644																																																																																																																																																																							
心臓系	408	23	23	408	710	54	61	703																																																																																																																																																																							
心臓系	4,132	18	13	4,137	1,282	17	11	1,288																																																																																																																																																																							
合計	16,316	4,656	1,726	19,246	3,646	192	113	3,635																																																																																																																																																																							
区分	29年度前	29年度	29年度前	29年度																																																																																																																																																																											
総合	3,052	2,901	1,954	1,954																																																																																																																																																																											
心臓系	46	88	134	134																																																																																																																																																																											
心臓系	745	1,116	1,861	1,861																																																																																																																																																																											
合計	3,843	4,105	2,949	2,949																																																																																																																																																																											
区分	29年度前	29年度																																																																																																																																																																													
総合	10.3	16.9																																																																																																																																																																													
心臓系	18.3	23.5																																																																																																																																																																													
心臓系	12.4	17.0																																																																																																																																																																													
			110	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等の徹底により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。</li> <li>価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。</li> <li>機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。</li> <li>価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。</li> <li>保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が行えた。</li> <li>案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。</li> <li>保守委託については3病院一括化・複数年契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の購入において、原則、一般競争入札とし、見積り合わせの場合も他病院の実績把握に努め競争性を確保している。</li> <li>【購入+保守管理】コスト削減例： 平成28取組例として総合病院で平成28にCT、CT同室型リニアック、ハイブリッド手術室用のアンギオ・MRIで購入と5年保守のセット調達を行い、定価に対して全体では購入で約8割引、保守料で約4割引を達成した。購入と保守のセットで参考見積を複数回取り、一層の値引きが可能な保守内容等の見直しも行うことで、保守料の高止まりを防いだ。</li> <li>【徹底した価格交渉】具体例： ・手術台 手術室を利用する医師及び看護師を中心に複数メーカーのデモを行い、使用しやすいメーカーを選定した。当該3メーカーの機器についてベンチマーク調査を行い、新手術室のうち基本仕様の18台を一括してスケールメリットを活かした一般競争入札を行った結果、参考見積額に対して約4割引を達成した。</li> </ul>																																																																																																																																																																							
			111	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託費の節減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。(H29年度の契約更新においては、全て一括化・複数年化を継続)</li> <li>委託の仕様の徹底した見直しを行った。</li> <li>コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図った。</li> </ul>	A	複数病院で集約化した委託等の契約は21件、うち複数年化を行ったものは16件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の契約更新に当たっても複数年・複数病院一括契約としてコスト削減とともに業務の効率化に努めている。</li> <li>業務委託ではモニタリング(業務評価)制度を導入し、評価結果の良し悪しにより受託先にインセンティブを付与することで業務の質の向上を促がしている。(成績不良により委託料を減額している事例あり)</li> <li>H29：給食・清掃・警備・医事の委託業務でモニタリング制度を実施(本部契約分)</li> </ul>																																																																																																																																																																							

中期計画		第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																																												
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価																																								
						説明	事務局確認事項																																							
					29年度 委託モニタリング評価結果 (H29.9末時点) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>第1期</td> <td>第2期</td> <td>第3期</td> </tr> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>第1四半期</td> <td>第2四半期</td> <td>第3四半期</td> <td>第4四半期</td> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>-1%</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> </table>	区分	第1期	第2期	第3期	給食	可	可	可	区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	可	警備(心・子)	可	可	可	可	医事(総・心)	可	-1%	可	可													
区分	第1期	第2期	第3期																																											
給食	可	可	可																																											
区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																										
清掃	可	可	可	可																																										
警備(心・子)	可	可	可	可																																										
医事(総・心)	可	-1%	可	可																																										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に経営情報を把握するとともに、適時適切な措置を講じられるよう体制を整備する。また、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備</li> <li>経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上</li> </ul>	112	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。</li> <li>より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。</li> <li>機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</li> <li>月次決算において、費用計上を発生主義から年間平準化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</li> <li>職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</li> <li>院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。</li> <li>主にH27年度から、上記取組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</li> </ul>	A <p>月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。また、会議や職員報を通して経営分析を職員に周知し、理事長、副理事長自ら研修等を行うことで、職員の経営に対する意識啓発が図られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の月次決算報告では前年度実績との比較等を示すことで、経営状況を随時チェックして改善を促している。</li> <li>各病院長が定期的に顔を合わせ各病院の状況を報告することで課題の共有や病院間の連携にも役立っている。</li> <li>原価計算への取組促進についてはNo. 80</li> </ul>																																							
<b>3 事務部門の専門性の向上</b> 事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。	<b>3 事務部門の専門性の向上</b> 経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用するとともに、専門性の向上に計画的に取り組む。併せて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるよう病院運営や医療事務等に精通した人材の確保に努める。	II 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>事務部門の専門性の向上</li> <li>事務職員の計画的な採用</li> <li>階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等へ事務職員の参加など</li> <li>異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進</li> <li>診療情報管理機能の強化</li> </ul>	113	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層や職務に応じた各種研修を実施する。</li> <li>また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。</li> <li>職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。</li> </ul>	・H29 採用内定者研修、事務職員基礎研修(新規採用職員)、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めている。 職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。 <table border="1"> <tr> <td colspan="3">事務職員に対する研修状況</td> </tr> <tr> <td>受講時期</td> <td>研修名</td> <td>開催状況</td> </tr> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5、6月 2日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規改付職員研修</td> <td>5月 1日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>8月 1日間</td> </tr> <tr> <td>セクション長昇任時</td> <td>新任管理者・監督者研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td>管理者(毎年度)</td> <td>コーチング研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ファシリテーション研修</td> <td>11月 1日間</td> </tr> <tr> <td>希望により任意参加</td> <td>マンダラボード研修</td> <td>12月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計基礎研修</td> <td>4月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計中級研修</td> <td>9月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未収金回収研修</td> <td>12月 半日</td> </tr> </table>	事務職員に対する研修状況			受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間		新規改付職員研修	5月 1日間	係長級昇任時	新任監督者研修	8月 1日間	セクション長昇任時	新任管理者・監督者研修	9月 1日間	管理者(毎年度)	コーチング研修	9月 1日間		コミュニケーション研修	7月 1日間		ファシリテーション研修	11月 1日間	希望により任意参加	マンダラボード研修	12月 半日		会計基礎研修	4月 半日		会計中級研修	9月 半日		未収金回収研修	12月 半日	A <p>業務の基礎部分に対する研修体系は出来た。事務職員の更なるレベルアップが必要である。</p>	<機構外研修の参加促進> 事務職員に対し、学会参加・発表や関係協議会・団体が主催する研修等への参加を促している。 <人材育成に主眼を置いた人事異動> 個々人の特性や経歴、資質・能力を踏まえ、さらなるキャリアアップにつながるような人事異動を行った。
事務職員に対する研修状況																																														
受講時期	研修名	開催状況																																												
新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間																																												
	新規改付職員研修	5月 1日間																																												
係長級昇任時	新任監督者研修	8月 1日間																																												
セクション長昇任時	新任管理者・監督者研修	9月 1日間																																												
管理者(毎年度)	コーチング研修	9月 1日間																																												
	コミュニケーション研修	7月 1日間																																												
	ファシリテーション研修	11月 1日間																																												
希望により任意参加	マンダラボード研修	12月 半日																																												
	会計基礎研修	4月 半日																																												
	会計中級研修	9月 半日																																												
	未収金回収研修	12月 半日																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価																																																																																																										
						説明	事務局確認事項																																																																																																									
			114	診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図っている。がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。</li> <li>・第2期中期期間（H26～30）</li> </ul> <table border="1"> <caption>診療情報管理士資格取得状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td>8</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>19</td> <td>10</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 専門課程修了者：資格が認定資格を有する者</p>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		資格取得者	専門課程修了者	総合	9	11	6	13	6	13	9	9	11	10	こころ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	こども		5	2	4	2	4	3	4	3	4	本部		8	3	11	3	11	5	5	7	8	計	4	18	10	19	10	19	14	17	14	17	A	<p>診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、資格者の増員を図っている。</p> <p>・資格取得支援として貸付制度を設けているが、H26年度以降の利用者はなく資格取得者も増加していない。 ・診療情報の適正な管理は診療報酬の適正算定につながることから、最新の知識を有する職員の育成は必要である。</p>																																					
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度																																																																																																							
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																																						
総合	9	11	6	13	6	13	9	9	11	10																																																																																																						
こころ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																																																																																																						
こども		5	2	4	2	4	3	4	3	4																																																																																																						
本部		8	3	11	3	11	5	5	7	8																																																																																																						
計	4	18	10	19	10	19	14	17	14	17																																																																																																						
			115	事務部門の業務マニュアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。</li> <li>・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニュアルを公開し、共有化している。</li> <li>・第2期中期目標期間（H26～30）</li> <li>・事務部門における業務項目数に対して、マニュアル整備率を上げている。</li> </ul> <table border="1"> <caption>マニュアル整備状況 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>259</td> <td>97%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>151</td> <td>93%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>241</td> <td>96%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>827</td> <td>94%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> </tr> </tbody> </table>	所属別	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		業務項目数	マニュアル整備数	総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	241	96%	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%	所属別	28年度		29年度		業務項目数	マニュアル整備数	業務項目数	マニュアル整備数	総合	268	268	100%	268	こころ	163	163	100%	163	こども	252	252	100%	252	本部	196	196	100%	196	合計	879	879	100%	879	A	<p>作成されたマニュアルを公開していることで、マニュアルの共有化が図られている。</p> <p>・業務項目数（計：879項目）のすべてにマニュアルが整備されている。 ・事務部門におけるマニュアル整備は業務の標準化を図り事務の効率化に加えてミスの防止にもつながるもので、これらの共有化は組織全体の質の向上につながるものと考えられる。</p>								
所属別	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度																																																																																																							
	業務項目数	マニュアル整備数	業務項目数	マニュアル整備数	業務項目数	マニュアル整備数	業務項目数	マニュアル整備数	業務項目数	マニュアル整備数																																																																																																						
総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																							
こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																							
こども	252	241	96%	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																							
本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																							
合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																							
所属別	28年度		29年度																																																																																																													
	業務項目数	マニュアル整備数	業務項目数	マニュアル整備数																																																																																																												
総合	268	268	100%	268																																																																																																												
こころ	163	163	100%	163																																																																																																												
こども	252	252	100%	252																																																																																																												
本部	196	196	100%	196																																																																																																												
合計	879	879	100%	879																																																																																																												
4 業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成	4 業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成	II 4	業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。</li> <li>・第2期中期目標期間（H26～30） 法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」、28年度から「業務改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改善運動に進んで取り組めるよう促した。</li> </ul> <table border="1"> <caption>業務改善運動推進制度実施件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th rowspan="2">前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>43</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>36</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>71</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td>166</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	前年増減率	総合	39	49	46	43		こころ	30	12	34	36		こども	46	54	53	71		本部	15	12	11	16		計	130	127	144	166		A	<p>業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備を図った。 H29年度は現在実施・集計中である。</p> <p>・各職員が日頃から業務改善運動に取り組み、組織全体で提案内容を共有できるシステムが確立されている。 ・近年、病院機構の業務改善事例が県のひとり一改革運動に推薦され表彰されるなど成果が出ている。 ・H29年度取組件数 総合：80件 こころ：29件 こども：50件 本部：19件 計：178件（参考：H28 166件）</p>																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		前年増減率																																																																																																									
	総合	39	49	46	43																																																																																																											
こころ	30	12	34	36																																																																																																												
こども	46	54	53	71																																																																																																												
本部	15	12	11	16																																																																																																												
計	130	127	144	166																																																																																																												